平成 29 年度

廿日市市シティプロモーション業務

実施報告書及び
効果検証報告書

平成３０年３月

廿日市市分権政策部

シティプロモーション室

【実施報告書及び効果検証報告書・目次】

1　プロモーションツールの作成 1
1－1　コンセプトブック改訂版「Life　style official concept book」について 1
（1）　概要 1
（2）　コンセプトブック画像 1
（3）　効果検証 2
1－2　廿日市市シティプロモーション・クリアファイルについて 4
（1）　概要 4
（2）　クリアファイル画像 4
（3）　効果検証 5
2　メディアを活用したプロモーション 6
2－1　ＴＳＳ「はじめてばこ」について 6
（1）概要 6
（2）協賛にかかる事業について 6
（3）「ひろしま満点ママ!!」とのタイアップ 11
（4）効果検証 12
3　中山間地域と沿岸部の交流促進（佐伯・吉和地域マルシェ開催） 14
3－1　はつかいち環境フェスタ 14
（1）概要 14
（2）写真・会場の様子 14
（3）メディア掲載・募集告知 15
（4）効果検証 15
3－2　「はつかいちトーク＆プチマルシェ」およびギャラリーの開催（@エディオン蔦屋家電） 16
（1）はつかいちトーク＆プチマルシェの概要 16
（2）ギャラリーの概要 16
（3）制作物 16
（4）会場の様子 19
（5）新聞記事 21
（6）効果検証 22
4　移住定住モニターツアーの実施 23
4－1　廿日市市移住定住モニターツアーの概要 23
4－2　第６回モニターツアー 24
（1）概要 24
（2）ツアーの募集方法（案内・告知等） 24
（3）メディア掲載・募集告知 26

（４）募集チラシ（制作物） 27
（５）モニターツアー効果検証 28
（６）アンケート調査・結果概要 28
（７）モニターツアーの様子 30
４－２　第７回モニターツアー 31
（１）概要 31
（２）ツアーの募集方法（案内・告知等） 31
（３）メディア掲載・募集告知 34
（４）募集チラシ（制作物） 35
（５）モニターツアー効果検証 35
４－３　第８回モニターツアー 36
（１）概要 36
（２）ツアーの募集方法（案内・告知等） 36
（３）モニターツアー効果検証 37
（４）アンケート調査・結果概要 37
（５）モニターツアーの様子 40
４－４　第９回モニターツアー 41
（１）概要 41
（２）ツアーの募集方法（案内・告知等） 41
（３）メディア掲載・募集告知 43
（４）募集チラシ（制作物） 44
（５）モニターツアー効果検証 44
（６）アンケート調査・結果概要 45
（７）モニターツアーの様子 47
５　住まいに関するフェア等への出展によるプロモーション 48
５－１　中国新聞「住まいる博 2017」について 48
（１）概要 48
（２）廿日市市の出展概要 48
（３）出展ブース実施内容 49
（４）運営スケジュール 50
（５）廿日市市の住みやすさ PR『廿日市市　住まいる劇場』 51
（６）砂原先生によるけん玉教室『目指せ！けん玉世界一！！』 53
（７）お子様のためのぬり絵コーナー『廿日市市のおうちを彩ろう』 54
（８）お子様のための工作コーナー『紙のけんだま』 55
（９）廿日市市のおすすめ物件(土地・建物)の紹介『住まいる廿日市 BOOK』 56
（10）アンケートに答えて『宮島口もみじ饅頭　食べ比べ』プレゼント 57

（11）パネル展示『廿日市市のおうちの窓から』 58
（12）新聞記事 59
（13）効果検証 60
6　地元学のプログラム開発 63
6－1　事業概要 63
（1）概要 63
（2）事業経過一覧 64
6－2　校内外での研修・学習支援 65
（1）シティプロモーション室の講演（廿日市高等学校） 65
（2）シティプロモーション室の講演（阿品台東中学校） 65
（3）シティプロモーション室の学習支援（阿品台東小学校） 66
（4）「さえき学」のヒアリング（佐伯高等学校） 66
（5）「ふるさと学習」のヒアリング（宮島中学校） 66
（6）「ふるさと学習発表会」のプレゼンテーション支援（廿日市高等学校） 67
（7）キャリア・スタート・ウィーク推進委員会（廿日市市役所） 67
（8）「ふるさと学習発表会」のプレゼンテーション支援（大野学園） 67
（9）大竹市・廿日市市教育研究会（大野学園） 68
6－3　ふるさと学習先進事例発表会 69
（1）実施概要 69
（2）新聞記事 71
（3）効果検証 72
（4）効果検証（WEB 効果測定調査より） 73
7　ウェルカムボードの制作 75
7－1　ウェルカムボードの概要 75
7－2　申し込み実績、アンケート結果 75
7－3　新聞記事 78
（4）効果検証（WEB 効果測定調査より） 78

1　プロモーションツールの作成

広島都市圏や首都圏の子育て世代に対して、本市の居住地としてのイメージや認知度を高め、移住先（転入先）の候補地となるためのプロモーションツールを作成した。

1－1　コンセプトブック改訂版「Life　style official concept book」について

廿日市市シティプロモーションの PR ツールとして、コンセプトブックの改訂を行った。廿日市市はライフステージに合わせたプロモーション戦略を実施していることから、今回の改訂版では、「Life　style official concept book」として、ライフステージをテーマにページ構成をしており、それに合わせて廿日市市の政策や地域資源等を紹介するとともに、廿日市市を「なぎな海・島」「ぎり街」「ちいと山」「ぶち山」の４つの地域特性に分けて、移住者のライフスタイルとおすすめスポットを紹介している。

（1）概要

廿日市市シティプロモーション「Life　style official concept book」の概要は以下の通りである。

サイズ　A５版

仕 様　フルカラー（両面表紙除く 22P）、マット紙、110kg

部 数　20,000 部

（部数・内訳）

動画普及ページ版と厳島神社での挙式紹介ページ版の２種類を制作

- コンセプトブック（動画普及ページ版）：10,000 部
- コンセプトブック（厳島神社での挙式紹介ページ版）：10,000 部

（2）コンセプトブック画像

表紙・裏表紙

表２・対面

中面・廿日市市の魅力、施策紹介

エリア・ライフスタイル紹介

（3）効果検証

（a） 本市の認知度向上（WEB 調査等で把握）について

ＷＥＢ調査で「廿日市市で暮らすことの興味・関心が高まったか」を聞くことで、認知度向上の測定とした。結果は以下の通り。（WEB 効果測定調査より抜粋）

Q11-2 廿日市市の様々な事業を知って、あなたは廿日市市で暮らすこと（移住定住：引っ越し）に興味・関心がわきましたか？

全体では、「非常に興味・関心がわいた」と回答される人が 4.6%、「興味・関心がわいた」と回答された人は 33.1%と４割弱の人が様々な事業によって、関心がわいたと回答している。

広島都市圏と廿日市市を比較すると、廿日市市では、「非常に興味・関心がわいた」と回答される人が 7.1%、「興味・関心がわいた」と回答された人が 39.0%であり、広島都市圏より高い傾向を示している。

図 47　廿日市市への関心の高まり（全体）（n=613）

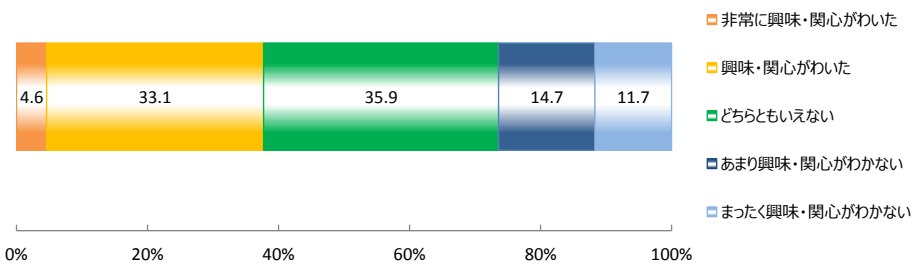
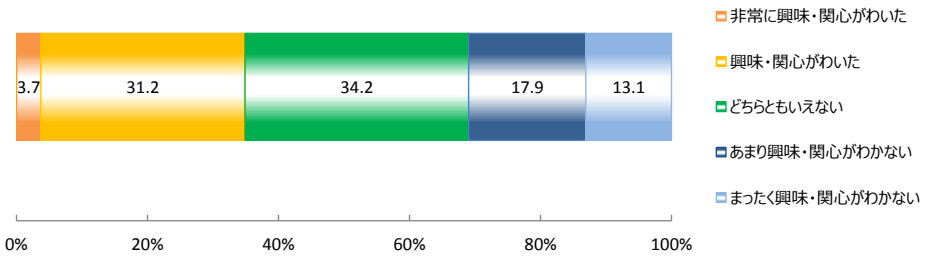
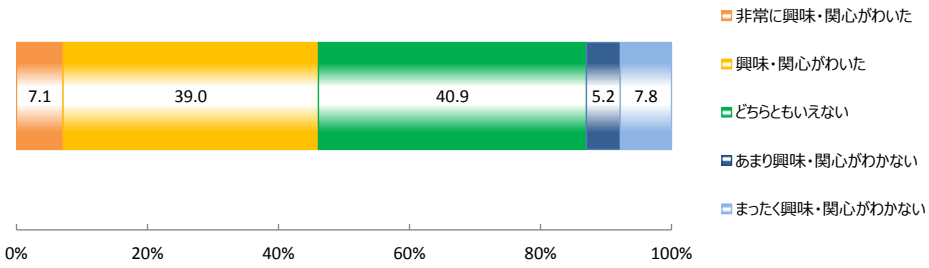


図 48　廿日市市への関心の高まり（広島都市圏、廿日市市）

【広島都市圏】（n=459）



【廿日市市】（n=154）



（b）取材活動を通じた本市のプロモーション活動に対する協力者の増加について

コンセプトブックでは新たな家族（5 組 20 名）の協力を得て、ご紹介をさせていただいた。

１－２　廿日市市シティプロモーション・クリアファイルについて

仕様書にある概要版の制作に関しては、必要性を検討した結果、PR ツール等を配布するためのクリアファイルの制作に変更した。クリアファイルは受け取った人が継続的に使用することが期待され、副次的な PR 効果を期待している。そして、クリアファイルは、廿日市市の「なぎな海・島」「ぎり街」「ちいと山」「ぶち山」の地域特性や主要都市からのアクセスについて説明しやすくするためのイラストがデザインされている。

（1）概要

廿日市市シティプロモーション業務のクリアファイルの概要は以下の通りである。

サイズ：Ａ４版　ダブルポケット付き 220mm×310mm
素　材：　PP(ポリプロピレン) 0.2mm 厚
印　刷：カラー4 色印刷＋白インキ
加　工：超音波ウェルダー加工
部　数：1,500 部

（2）クリアファイル画像

表面

裏面

（3）効果検証

制作・納品が３月中旬だったため、WEB 調査による効果測定は対象外。

中国新聞社「住まいる博 2017」に及び「はつかいちトーク＆プチマルシェ」にて配布。

２　メディアを活用したプロモーション

広島県内の映像系メディアとの連携事業の実施により、広島都市圏の子育て世代に対して、廿日市市の子育てを中心とした居住環境や地域資源等の認知度をアップさせるプロモーションを展開することを目的に実施した。

２－１　ＴＳＳ「はじめてばこ」について

廿日市市を子育て世代に効果的にPRするメディアとして、ＴＳＳ・テレビ新広島の「Thank you for zero ～ 生まれてくるすべての子どもたちに素敵な未来を ～」のプロジェクトに自治体として初めて協賛し、「はじめてばこ」にコンセプトブックを同梱し、子育て世代へ直接的に届けることができるプロモーションを行った。

（１）概要

「はじめてばこ」の概要は以下の通りである。

期間：2017年4月2日～2018年4月1日（年度単位で実施）

内容：広島県内で上記期間内に生まれたすべての赤ちゃんの家庭にBoxをプレゼントしているが、協賛することで、廿日市市のコンセプトブックを同梱する。

形式：ご家族からの応募形式（WEB）　※出生から6か月間、申し込み可能

規模：15,000 名（見込み）～　（平成 28 年度の広島県内の出生数予想 24,000 名）

（２）協賛にかかる事業について

「はじめてばこ」の協賛に伴う事業として、以下の通り実施した。

（ａ）プレゼントBOX「はじめてばこ」に廿日市指定のコンセプトブックを同梱

2017 年 8 月 18 日　1,200 部
2017 年 11 月 30 日　10,000 部

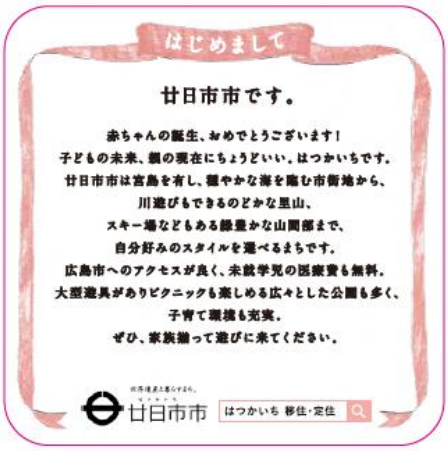
（ｂ）ポスター・チラシへの協賛社名表示

2017年8月29日～展開

（ｃ）はじめましてカード　（童謡カード）

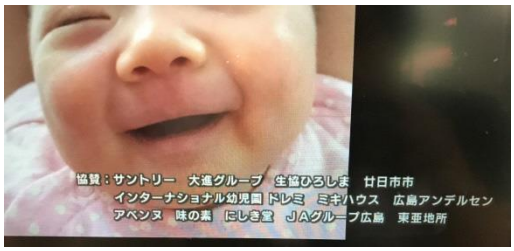
「はじめてばこ」に同梱する廿日市市の「はじめましてカード」を制作した。

2017年9月1日～同梱



ｄ）「ひろしま満点ママ!!」3940レギュラー企画 協賛表示（集合スーパー）

毎週放送（基本）コーナー内にて、「廿日市市名」を集合スーパーにて表示した。



（ｅ）「みんなのテレビ」本編

「あれコレ調べ隊3940ver.」にて、 自然な形で廿日市市を紹介した。

2018 年 2 月 23 日（金）16:48～17:53「tss みんなのテレビ」内　 視聴率／4.3%

（ｆ）「ひろしま満点ママ!!」『情報スパイス』60秒

廿日市市のキャンペーン時期に合わせて、通常のパブリシティーを実施した。

2018 年 1 月 15 日（月）9:50～11:25「ひろしま満点ママ!!」内　 視聴率／9.1%

（ｇ）「満点ママプラス」取り上げ40秒

取材によるパブリシティーを実施した。

2018 年 3 月 2 日（金）11:20～11:25「満点ママ!!プラス」内　視聴率／7.7%

（ｈ）コラボＣＭの制作&放送　15秒（1タイプ）

廿日市市関係者出演のタイアップCMを制作・放送した。※フリースポットにて。

2017 年 9 月 1 日（金）～9 月 17 日（日）放送　10 本　イベント告知版

2017 年 10 月 13 日（金）～10 月 31 日（火）放送　15 本　WEB 誘引版

2017 年 11 月 5 日（日）～11 月 8 日（水）放送　15 本　WEB 誘引版

（ｉ）キャンペーンＣＭぶら下がり告知　１５秒

キャンペーン告知CMのラストカットに廿日市市ロゴを露出した。※フリースポットにて

2017 年 9 月 1 日（金）～12 月 31 日（日）　20 本放送

（ｊ）ＨＰバナー掲載

ＴＳＳの公式ＨＰにて、廿日市市の名前を露出した。

（３）「ひろしま満点ママ!!」とのタイアップ

廿日市市の PR を兼ねて、TSS・テレビ新広島の「満点ママ」の特集コーナー「OKIRAKU ツアーズ」とのタイアップを行い、以下の通り取材・放映を行った。

（ａ）アクティブに癒やされたい！廿日市おさんぽツアー

取材日：2017 年 9 月 15 日（金）

放送日：2017 年 9 月 21 日（木）9:50～11:20「ひろしま満点ママ!!」内

視聴率／5.8%

<図 2-1　放映内容>

画像：TSS・HP

（ｂ）バレンタインをどう過ごす？フォトジェニックな廿日市ツアー

取材日：2018 年 1 月 26 日（金）

放送日：2018 年 2 月 1 日（木）9:50～11:20「ひろしま満点ママ!!」内

視聴率／8.0%

<図 2-2　放映内容>

画像：TSS･HP

（４）効果検証

TSS の「はじめてばこ」の CM の閲覧率を「子育て環境が良いことの認知度向上」と「映像メディアの活用による広範囲への PR」測定とした。結果は以下の通り。（WEB 効果測定調査より抜粋）

Q4-1 TSS の「はじめてばこ」で廿日市市の CM を見たことがありますか？

全体では、「見たことがある」と回答された人が 30.0%、「見たことがない」と回答された人が 70.0%で、全体の 3 割が廿日市市の CM を見たことがあった。

広島都市圏と廿日市市を比較すると、廿日市市では「見たことがある」と回答される人が 41.6%と、高い傾向を示している。

図 19　廿日市市の CM 閲覧率（全体）（n=613）

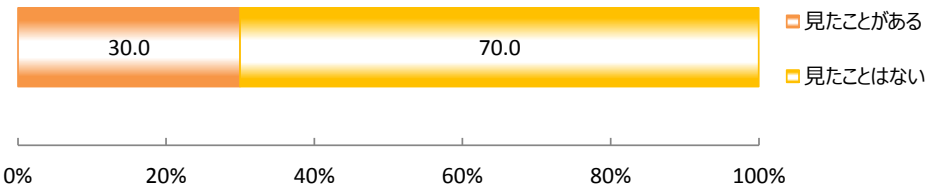
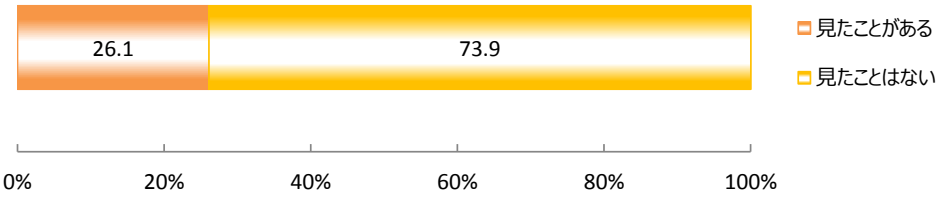
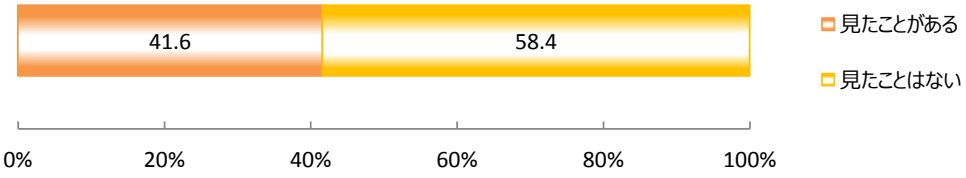


図 20　廿日市市の CM 閲覧率（広島都市圏、廿日市市）

【広島都市圏】（n=459）



【廿日市市】（n=154）



３　中山間地域と沿岸部の交流促進（佐伯･吉和地域マルシェ開催）

廿日市市の中山間地域の魅力ある資源を、本市沿岸部及び広島都市圏に居住する人々にＰＲすることで、市内の地域間交流を促すとともに、都市と自然が近接した廿日市市の特長を多くの人に認知してもらうことで定住人口の維持を図るため、「はつかいち環境フェスタ 2017」への出展および「はつかいちトーク＆プチマルシェ」を企画・実施した。

３－１　はつかいち環境フェスタ

シティプロモーション室が出展した「はつかいち環境フェスタ 2017」の概要は以下の通りである。

（１）概要

日時：2017 年 10 月 1 日（日）　10:00～15:00
場所：ゆめ桜公園（ゆめタウン廿日市横）
出展ブース：35 ブース（出展団体　38 団体）
イベント内容：

- エコカー展示
- リサイクルマーケット
- 環境啓発ポスター・標語コンクールなど入賞作品展示および表彰式
- スタンプラリーおよび抽選会
- お笑いライブ
- ペンギンふれあいイベント
- 子牛ふれあいコーナーなど

（２）写真･会場の様子

（３）メディア掲載・募集告知

（４）効果検証

＜来場による中山間地域の魅力の認知度向上＞

環境フェスタへの来場者に対して、廿日市市のPRツール等の配布と特産品の販売を通じて、中山間地域の魅力のPRを行った。

- 来場者に対して、チラシ・パンフレット等500部を配布。
- ブースで物販をした、野菜、パン、焼き菓子は完売。焼肉のタレ、渋皮栗も数多く販売。

＜来場後の中山間地域への来訪＞

環境フェスタ会場で配布したチラシは、「おさんぽギャラリー」のもので、クーポン付きだった。クーポンの回収から18 件（3.6%）の来訪が確認できた。もちろんクーポンを使用していない来訪者もいたと思われる。

３－２ 「はつかいちトーク＆プチマルシェ」およびギャラリーの開催（@エディオン蔦屋家電）

廿日市市の「ちいと山」「ぶち山」をドライブコースとして認知度を高めることで誘客を図るために、エディオン蔦屋家電にて、「はつかいちトーク＆プチマルシェ」を開催した。

（１）はつかいちトーク＆プチマルシェの概要

日時：2018 年 3 月 17 日（土）11:00～16:00
会場：エディオン蔦屋家電 3Ｆ イベントスペース
内容：トークイベント、プチマルシェ

＜はつかいちトーク＞

廿日市市の里山ドライブの魅力を紹介するトークイベント
時間：13:30～15:00
ゲストスピーカー：甲斐みのり（文筆家）
山下ミカ（PR プロデューサー）
司会：東園恵（FM はつかいちパーソナリティ）
来場者：約 50 名（アンケート回収 25 名）

＜プチマルシェ＞

食、雑貨の PR＆販売
時間：11:00～16:00
出店者：ハイチャイ農園（お茶）、広島ひかり園いろどり（雑貨）
ヒルバレー（パン）、ヤマサキ帆布店（雑貨）

（２）ギャラリーの概要

観光課のカメラ女子の事業等で撮影したはつかいちの里山の写真や作品、ドライブ手帖の展示をすることで、廿日市市への誘客の PR を図った。

期間：3 月 1 日（木）～3 月 31 日（土）
会場：エディオン蔦屋家電 1F ギャラリースペース

（３）制作物

本事業では、以下の内容を制作した。

（ａ）告知・集客ツール
- facebook ページ
- 広告チラシ

（ｂ）女性目線による「ドライブ手帖」の制作※web 版データ含む
仕様：B5 サイズ、8 ページ、カラー、5000 部

＜facebook ページ＞

＜告知チラシ＞

＜ドライブ手帖＞

甲斐みのり
×
走るオンナ倶楽部
「はっかいち
佐伯・吉和ドライブ手帖」
～ちいと山・ぶち山編～

甲斐みのり×「走るオンナ倶楽部」
ここが魅力!!はつかいち（ちいと山・ぶち山）
わたしにとって
古い街並み・商店街は
ワクワクの源
季節で色や風景が変わる
ドライブコースは
いつ行ってもワクワク
広島県廿日市市は
"はっかいち"
とよみます
ちいと山・ぶち山を楽しむ廿日市市

自然を横目に
レトロ街道を抜けて
パワースポットと
カフェめぐり
～ちいと山コース～
甲斐みのり
Select
おすすめ
コース

大自然を満喫しながら
アートや
アクティビティに
ふれる
吉和魅力めぐり
～ぶち山コース～
甲斐みのり
Select
おすすめ
コース
女子目線でドライブ

＜web データ制作＞

小冊子の web 版　http://hs-plus.jp/hatsukaichidrive2018/

（４）会場の様子

＜はつかいちトークの様子＞

＜プチマルシェの様子＞

＜ギャラリーの様子＞

（５）新聞記事

広島都市圏

佐伯・吉和 車で巡って

コースや名所冊子に

廿日市市、女性目線で紹介

廿日市市は、女性向けに市北部の佐伯・吉和両地域のドライブコースやお薦めスポットを紹介する無料冊子「ドライブ手帖」を作った。県内外の車好きの女性グループ「走るオンナ倶楽部」が運転を載せた。市は「会員制交流サイト（SNS）などで発信力のある女性が車で訪れ、里山の魅力を広めてほしい」と期待する。

B5判6ページで、5千部を作成。市は、広島市南区のエディオン蔦屋家電で17日に開く甲斐さんと同倶楽部メンバーのトークショーで配り、市役所にも置く。同店では31日まで両地域の写真を展示している。市シティプロモーション室☎0829・30・9221。（森戸新士）

佐伯・吉和両地域の女性向けのドライブコースとお薦めスポットを紹介する冊子

「はつかいは佐伯・吉和ドライブ手帖」

飲食店などを写真付きで掲載。甲斐さんは津田商店街の老舗菓子店や喫茶店や雑貨店など園など自然を楽しむ施設のほか、美術館併設の女性グループ「走るオンナ倶楽部」が運転イチゴ狩りができる農園や古民家を活用した

を「懐かしさ漂うお店の看板がたまらない」と紹介する。さらに北へ約30分の吉和では、乗馬クラブや森林公

中国新聞：平成 30 年 3 月 15 日（木）

（参考）メディア掲載・募集告知　※本委託業務には含まない

SUUMO マガジン（2018 年 2 月 14 日発行号）

（６）効果検証

＜来場による中山間地域の魅力の認知度向上＞

イベントへの参加者は、約50人で満席という状況のなか、トークイベントおよびマルシェ、PRツール等で佐伯・吉和地域の魅力をPRすることができた。

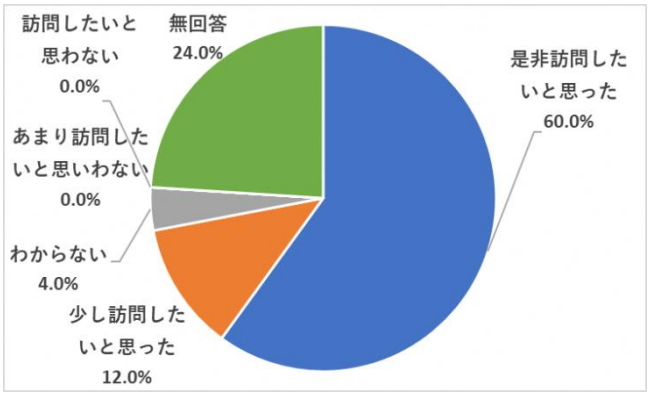
＜来場後の中山間地域への来訪＞

イベント参加者を対象にアンケート調査を実施。（アンケート調査より抜粋）

⇒参加者の 72%は、廿日市市（佐伯・吉和地域）への来訪意欲が高まったと回答。

Q　廿日市市の里山エリアを訪れてみたいと思いましたか。

項目	回答数
是非訪問したいと思った	15
少し訪問したいと思った	3
わからない	1
あまり訪問したいと思いわない	0
訪問したいと思わない	0
無回答	6



【ぜひ、訪問したいと思った理由】

ランチに行ってみたくなった。
ドライブマップのモデルコースを訪れてみたい。
もともと好きでよく行くエリアでしたが最近行ってなく、お話を聞いてまた再訪したいと思った。
おいしそうなお店に行きたい。
知らない場所やお店があったので
宮島以外にもたくさん見所があることが分かった。
GW にキャンプしまーす。
ステキな場所があることを知ったから。
知らなかったけど、見たり食べたり楽しめる所がたくさんあったから。
カフェがおいしそう！と思った。

【わからない理由】

以前湯来に 3 度程行ったけれど、あまり楽しめなかった。身内同士が集まって色々していて疎外感を覚えた

４　移住定住モニターツアーの実施

廿日市市への移住（転入）を検討しているいわゆる「見込み客」の獲得を目的に、廿日市市での暮らしについて、より具体的なイメージの提供や居住環境の紹介を行うモニターツアーを実施した。

４－１　廿日市市移住定住モニターツアーの概要

廿日市市の「生活圏内の環境把握」と「地域住民・先輩移住者との交流」を基本的な内容とした体験ツアーを沿岸部、中山間地域等市内のエリアごとに３回実施した。ツアーはバス移動による日帰りを基本とし、主な対象は広島都市圏および近隣市町に住む子育て世代とした。

ツアーは、廿日市市での暮らしや仕事について、理解と関心を深めるような行程を組んでおり、都市部においては、住環境および価格、子育て支援センター、保育園、小学校、中学校などを回るとともに地域の関係者らに直接話が聞けることを重視して企画した。また中山間部においては、田舎暮らしとしての魅力や大変さを体験するとともに、先輩移住者との交流を重視して企画した。

ツアーの実施時期・条件等は以下の通り。

実施回数：年４回（沿岸部２回、中山間部２回）を企画
実施時期：第６回 2017 年 7 月 23 日（日）
　　第７回 2017 年 8 月 25 日（金）～26 日（土）※最少催行人数に満たないため未実施
　　第８回 2017 年 12 月 3 日（日）
　　第９回 2018 年 2 月４日（日）
実施形態：バス移動による日帰りツアーを基本とし、１回あたりの参加者数は概ね 20 名程度。
その他　：参加者からの参加料の徴収については、市と協議して定める額を受託者が徴収する。
　　※協議の結果、大人 1,000 円、こども（3~12 歳）500 円、こども（3 歳児未満）は無料を基本とした。
　　注）平成 27 年度に実施したツアーを第 1 回、
　　平成 28 年度に実施したツアーを第 2 回～第 5 回、
　　平成 29 年度に実施したツアーを第 6 回～第 9 回とした。

４－２　第６回モニターツアー

（１）概要

目的：広島都市圏等から廿日市市への移住定住を促進するために、子育て世代の参加を中心としたモニターツアーを実施し、彼らに対して廿日市市での暮らしや仕事などライフスタイルのイメージを伝えることで、廿日市市への理解と関心を高め、移住先の候補として検討していただくために実施をする。特に廿日市地域の都市部と佐伯地域の中山間地域の隣接性について、実感していただき、移住定住を前提として、「楽しみ」という要素も重視し、交流人口の拡大を目指したファンづくりのためのツアーとしても企画した。

日時：2017 年 7 月 23 日（日）9:00~17:00　＜日帰り＞

集合場所：JR 廿日市駅北口（北口階段下のロータリー付近）＜※8:45 受付、9:00 出発＞

参加条件：廿日市市での暮らしに関心のある方。アンケートにご協力いただける方。

参加費：大人 1,000 円、子ども 500 円（3 才～12 才）※3 歳未満は無料（但し食事なし）

参加方法：チラシの配布、FAX・WEB からのお申込み

募集人員：20 名（最少催行人員）

訪問場所等：

JR 廿日市駅

- 廿日市駅周辺の再開発（木造の駅舎、周辺の再開発や廿日市地域の概要説明）
- 福祉拠点「あいプラザ」の施設見学
- 隣接の「けん玉公園」見学
- にこにこの森保育園
- けん玉 WC を見学　※急遽、見学
- 平良小学校の見学
- 住宅団地の見学（バス車窓：住環境・坪面積・価格帯・販売状況など説明）
- 昼食交流会（佐伯地域・集会所）
- 川遊び
- 安井梨園の見学
- 清流厨房「せせらぎぶんこう」 ※カフェタイム、意見交換（質疑）、アンケート記入

JR 廿日市駅

（２）ツアーの募集方法（案内・告知等）

モニターツアーのチラシおよび各種メディアを通じて、ツアー参加者の募集を行った。案内・告知に関しては、ハーストーリィプラス（以下：HSP）の協力を得て実施。

■廿日市市モニターツアー　チラシ配布先

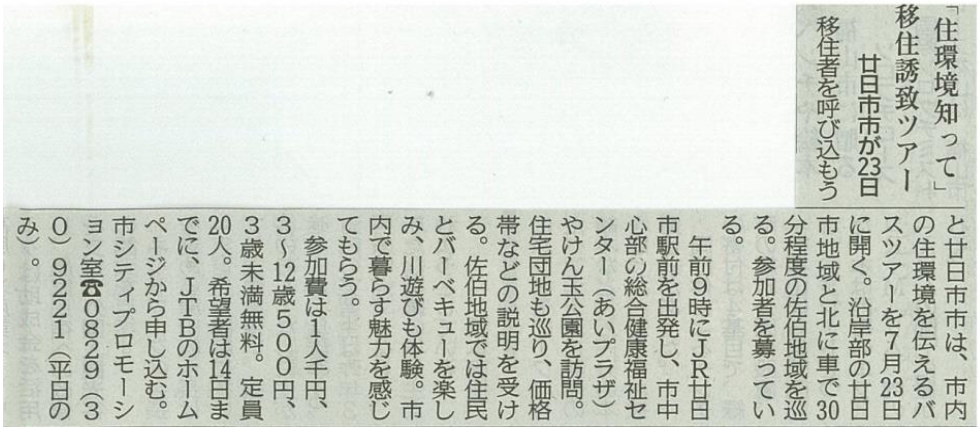
	名前	枚数	備考
SHOP	HOUSE	150	
SHOP	リシュラグループ	120	
SHOP	井口台はりきゅう整体院	30	

SHOP	キンダートーネン広島	30	
SHOP	井口台シオン幼稚園	30	
その他	皆賀公民館	30	
その他	道のピュアラインにしき	30	
その他	岩国市観光協会	30	
SHOP	喫茶ルレーブ	30	
SHOP	swinging bird kitchen	30	
SHOP	hana 井口店	30	
その他	わくわく保育園井口明神	30	
その他	社会福祉法人廿日市福祉会	30	
その他	宮内市民センター	30	
その他	うさぎっこランド	30	
SHOP	プロマート五日市店	30	
その他	アステールプラザ	30	
その他	広島市文化交流会館	30	
SHOP	わらうかど庭	30	
SHOP	DELI CAFE Bon gouter	30	
その他	農菜館ファーマーズマーケット	30	
その他	岩国市役所	30	
その他	廿日市市総合健康福祉センターあいプラザ	30	
その他	廿日市市総合健康福祉センター子育て支援センター	30	
SHOP	5days market	30	
SHOP	住友不動産販売五日市営業センター	30	
SHOP	エイブル五日市店	30	
SHOP	キッシュグラン・ココ	30	
SHOP	エヌテック	30	
その他	佐伯区スポーツセンター	30	
その他	安佐南区総合福祉センター	30	
その他	安佐南区スポーツセンター	30	
SHOP	五日市天然温泉ゆらゆら	30	
その他	HSP イベント配布など	300	
合計		1,500	

■WEB

	HSP運営サイト「プラスなプレス」	
	HSP運営サイト「オヤとコと。」	
	HSP FACEBOOKページ	
	TAUのＨＰ、FACEBOOKページ	
	広島県交流支援サイト	

（３）メディア掲載･募集告知



「住環境知って」
移住誘致ツアー
廿日市市が23日
移住者を呼び込もう

と廿日市市は、市内の住環境を伝えるバスツアーを7月23日に開く。沿岸部の廿日市地域と北に車で30分程度の佐伯地域を巡る。参加者を募っている。

午前9時にJR廿日市駅前を出発し、市中心部の総合健康福祉センター（あいプラザ）やけん玉公園を訪問。住宅団地も巡り、価格帯などの説明を受ける。佐伯地域では住民とバーベキューを楽しみ、川遊びも体験。市内で暮らす魅力を感じてもらう。

参加費は1人千円、3～12歳500円、3歳未満無料。定員20人。希望者は14日までに、JTBのホームページから申し込む。市シティプロモーション室☎0829（30）9221（平日のみ）。

中国新聞：平成 29 年 6 月 30 日（金）

中国新聞 Cue 募集記事（7 月 7 日号）

（参考）メディア掲載・募集告知　※本委託業務には含まない

SUUMO マガジン（2017 年 6 月 21 日発行号）

（４）募集チラシ（制作物）

募集チラシ･2,500 部印刷

表面

裏面

（５）モニターツアー効果検証

本ツアーの内容、結果に関して、定量および定性の面から以下の効果検証が確認された。

【定量】

- 本ツアーの参加者は 8 組 14 名。内訳は以下の通り。
  参加者：14 名（内・大人男性 4 名、大人女性 7 名、子ども 3 名）
  参加者の居住地域：西区、東区、安佐南区、呉市、府中町、大竹市、岩国市

【定性】

- 不動産業者、保育所経営者と連携した案内により、廿日市市における住宅事情と保育事情を詳細に伝えることができた。
- 小学校の施設の見学、教育的な取り組みを知ることで廿日市市が教育に力を入れていることを伝えることができた。
- 佐伯地域の自然環境の魅力、観光農園や飲食店などの案内など、観光的な魅力を伝えることができた。
- 佐伯地域に暮らす先輩移住者らとの交流を経て、佐伯地域の仕事と暮らしのスタイルについて伝えることができた。

（６）アンケート調査・結果概要

調査対象：大人 11 名（※小学生以下 3 名は対象外）

調査方法：アンケート直接配布・記述式

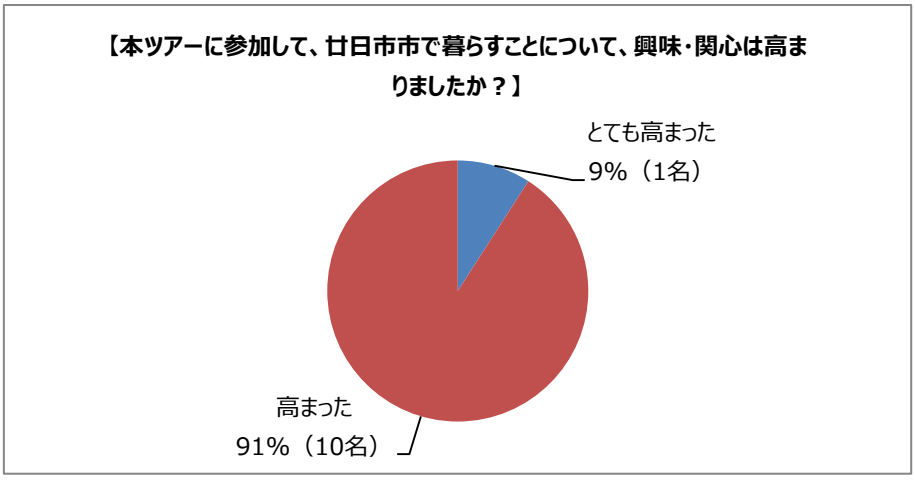
調査時期：清流厨房「せせらぎぶんこう」にて、実施・即日回収　※回収率 100%

調査報告書：別冊の報告書を参照※以下一部抜粋

Q１　本ツアーに参加して、廿日市市での生活について、興味・関心は高まりましたか？該当するもの 1 つに○をつけてください。

「とても高まった」は 1 名（女性）、「高まった」は 10 名の回答があった。

モニターツアーに参加して、廿日市市への興味・関心が高まっていることが顕著に現れている。



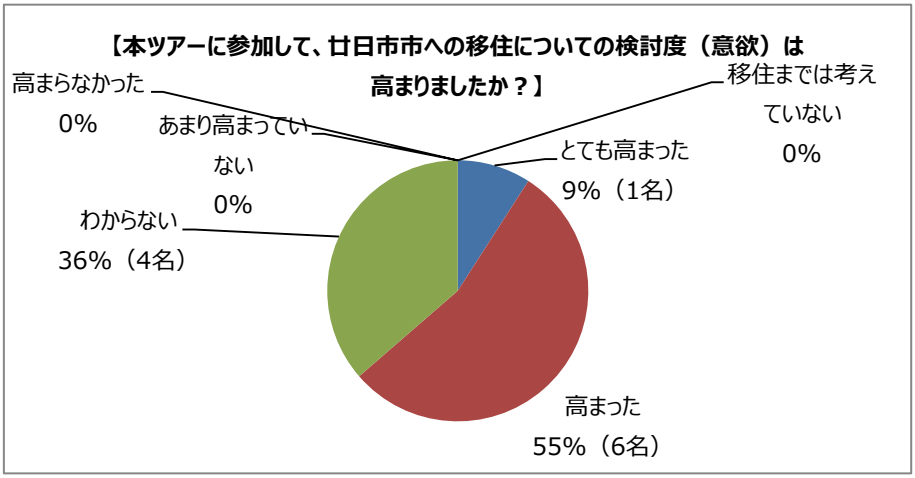
Q１-② 高まった理由

Y.Y	実際に現地の自然や人に触れ、のんびりした時間が流れる感じがとても良かったです。冬は雪が大変そうなので、夏場だけの移住ができたら良いと思いました。
G.M	中心地から自然まで知ることができて良かった。また、地元の人や市役所の方がフレンドリーで良かったです。
U.E	無記入
A.M	駅前の利便性や教育環境が整っている。少し足を延ばせば、豊かな自然もあり、大変魅力的。
H.M	勤務地である広島市へのアクセスの良さ。都会すぎず、田舎すぎず。
N.A	遊びに寄ったり、通過したりとしたことは多々ある廿日市市でしたが、いつもとは違う角度で知ることができた。地域を身近に感じることができました。
N.N	若い人たちの話を聞くことができた。
K.T	これまで廿日市市で何度かセミナー、交流会に参加して廿日市市の魅力を感じていたが、今回ツアーという形で実際に町を訪れて、改めて、廿日市市の魅力が再発見できた。
N.H	廿日市市の環境がとても良かったから（複合施設）
A.K	廿日市市について、市街地の規模や住宅の購入価格等の丁度良さ、高すぎず低すぎずといった内容に魅力を感じることができた。
A.R	ツアーを通して、地域の住環境としての魅力が今までのイメージよりもかなり具体的になり、実際の移住先の候補として、現実的に思えてきた。

Q２ 本ツアーに参加して、廿日市市への移住についての検討度（意欲）は高まりましたか？該当するもの１つに○をつけてください。

「とても高まった」は１名（女性）、「高まった」は６名（女性 ４ 名）、「わからない」は４名の回答があった。

モニターツアーに参加して、廿日市市の検討度（意欲）は高まったといえる。特に女性が高い傾向が伺える。



（７）モニターツアーの様子

バス移動中・車中説明

子育て支援センター

けん玉公園

にこにこの森保育園

けん玉 WC を見学

不動産事業者による説明

平良小学校見学

昼食交流会－①

昼食交流会－②

地域住民（先輩移住者）交流①

地域住民（先輩移住者）交流②

川遊び

安井梨園の見学

「せせらぎぶんこう」アンケート

「せせらぎぶんこう」挨拶・説明

４－２　第７回モニターツアー（催行中止）

（１）概要

目的：広島都市圏から廿日市市（吉和地域）への移住定住を促進するために、子育て世代の参加を中心としたモニターツアーを実施し、彼らに対して廿日市市での暮らしや仕事などライフスタイルのイメージを伝えることで、廿日市市への理解と関心を高め、移住先の候補として検討してもらうために実施した。なお、１泊２日の移住定住ツアーは初であり、参加者と住民の交流時間を増やすため、宿泊を伴うツアーとして企画した。

日時：2017 年 8 月 25 日（金）9:30 出発　8 月 26 日（土）15:00 帰着　＜1 泊 2 日＞

集合場所：JR 廿日市駅北口（北口階段下のロータリー付近）＜※9:00 受付 9:30 出発＞

参加条件：廿日市市での暮らしに関心のある方。アンケートにご協力いただける方。

参加費：大人 4,000 円、子ども 2,000 円（３才～12 才）※3 歳未満は無料（但し食事なし）

参加方法：チラシの配布、FAX・WEB からのお申込み

募集人員：20 名（最少催行人員）

訪問場所等：

JR 廿日市駅

（1 日目）

- JR 廿日市駅周辺の再開発（木造の駅舎、周辺の再開発や廿日市地域の概要説明）
- 吉和地域の見学（支所、福祉センター、保育園など）
- 吉和学園訪問・吉和の暮らしを聞く
- 野菜収穫体験
- バーベキュー交流会（魅惑の里バーベキュー場）

（2 日目）

- 空き家・市営住宅の見学
- 田舎体験（竹の雑貨・食器づくり、田舎料理体験）

JR 廿日市駅

（２）ツアーの募集方法（案内・告知等）

モニターツアーのチラシおよび各種メディアを通じて、ツアー参加者の募集を行った。案内・告知に関しては、ハーストーリィプラス（以下：HSP）の協力を得て実施。

また、今回は「郵便局広告専用パンフレットラック」を活用したチラシの配布を実施した。

■廿日市市モニターツアー　チラシ配布先（ハーストーリィプラス経由）

	名前	枚数	備考
SHOP	HOUSE	60	
SHOP	リシュラグループ	70	
SHOP	プロマート五日市店	30	
SHOP	Dining Cafe la paletta	30	
SHOP	WOODPRO Shop&Cafe	30	

SHOP	WOODPRO	30	
その他	うさぎっこランド	30	
SHOP	M SALOTTO	30	
その他	佐伯区役所内 おやこっこさえき	30	
その他	あいプラザ	30	
その他	あいプラザ 子育て支援センター	30	
その他	廿日市市スポーツセンターサンチェリー	30	
その他	佐伯区民文化センター	30	
その他	大竹市総合市民会館・総合体育館	30	
その他	大竹会館アゼリアホール	30	
その他	大竹市立図書館	30	
その他	五日市スイミングスクール	30	
その他	皆賀公民館	30	
SHOP	エイブル広島	30	
その他	キンダートーネン	30	
SHOP	キッシュグラン・ココ	30	
その他	社会福祉法人 廿日市福祉会	30	
その他	宮内市民センター	30	
その他	岩国市役所	30	
その他	岩国観光協会	30	
SHOP	Cafe 夢多与	30	
SHOP	お好み焼 はらちゃん	30	
SHOP	わらうかど庭	30	
SHOP	みほり峠	30	
SHOP	農菜館 五日市	30	
その他	HSP イベント配布など	30	
合計		1,000	

■WEB

	HSP運営サイト「プラスなプレス」	
	HSP運営サイト「オヤとコと。」	
	HSP FACEBOOKページ	
	TAUのＨＰ、FACEBOOKページ	
	広島県交流支援サイト	
	株式会社エヌティック（スタッフブログ内）	

■紙媒体

	中国新聞	

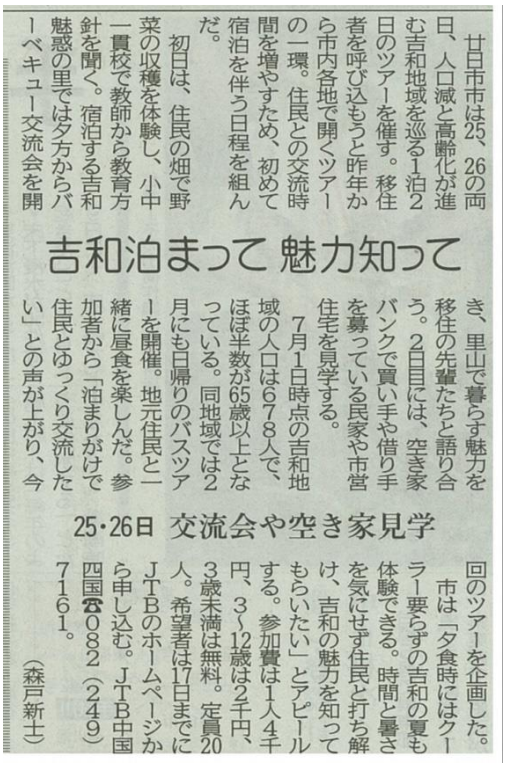
■廿日市市モニターツアー チラシ配布先（郵便局広告専用パンフレットラック・廿日市市経由）

エリア	チラシ設置個所	部数	備考
東京	郵便局		2 週間程度設置
	ふるさと回帰センター	100	
	tau	100	

	各球場（神宮、横浜、東京）		
	広島にゆかりのある飲食店		お好み焼き屋など
広島	広島空港	100	100
	岩国空港	100	100
	広島県庁	100	100
	県内道の駅（19 箇所程度）	1,000	1000
	ひろしま夢ぷらざ	100	100
	マツダ zomzoom スタジアム	100	100
	広島市観光案内所（駅など 3 箇所）	150	150
佐伯	せせらぎ分校	20	20
	ヒルバレー	20	20
	カフェテラス北山	20	20
	ルッツォ	20	20
	津保美堂	20	20
	市民センター（4 箇所）	40	40
	岩倉キャンプ場	20	20
	アーチェリーランド	20	20
	MRC 乗馬クラブ	20	20
	佐伯商工会	20	20
	佐伯支所	20	20
吉和	吉和支所	20	20
	吉和市民センター	10	10
	魅惑の里	20	20
	クヴェーレ吉和／ウッドワン美術館	40	40
	もみのき森林公園	20	20
	フォレストアドベンチャー	20	20
	エレファントスイーツ	20	20
	ミントハウス	20	20
廿日市 その他	観光協会（廿日市市内）	20	20
	宮島 SA		
	宮島航路フェリー内		
	吉和産商品納入先		
	銀行系金融機関	100	100
	ゆめタウン廿日市ｚｚｚ	100	100
イベント配布	名称	部数	備考
	定住フェア（東京）	100	7/29（土）
	さいき水まつり	50	7/29（土）支援員ブース
マスコミ		部数	備考
雑誌	田舎暮らしの本		
	中国新聞		
	西広島タイムス		
	リビングひろしま		

	観光系プレスリリース取り扱いサイト （PR TIMES）		
	TJ 広島等の有料タウン誌		
WEB		部数	備考
	ハーストーリーハウス		
	HIROBIRO		
	広島暮らし		
	ふるさと回帰センター		
	JOIN		
	廿日市市 HP／移住定住サイト		
	廿日市市フェイスブック		
	tau		
		2,730	

（３）メディア掲載・募集告知



吉和泊まって 魅力知って

廿日市市は25、26の両日、人口減と高齢化が進む吉和地域を巡る1泊2日のツアーを催す。移住者を呼び込もうと昨年から市内各地で開くツアーの一環。住民との交流時間を増やすため、初めて宿泊を伴う日程を組んだ。

初日は、住民の畑で野菜の収穫を体験し、小中一貫校で教師から教育方針を聞く。宿泊する吉和魅惑の里では夕方からバーベキュー交流会を開き、里山で暮らす魅力を移住の先輩たちと語り合う。2日目には、空き家バンクで買い手や借り手を募っている民家や市営住宅を見学する。

25・26日 交流会や空き家見学

7月1日時点の吉和地域の人口は678人で、ほぼ半数が65歳以上となっている。同地域では2月にも日帰りのバスツアーを開催。地元住民と一緒に昼食を楽しんだ。参加者から「泊まりがけで住民とゆっくり交流したい」との声が上がり、今回のツアーを企画した。

市は「夕食時にはクーラー要らずの吉和の夏も体験できる。時間と暑さを気にせず住民と打ち解け、吉和の魅力を知ってもらいたい」とアピールする。参加費は1人4千円、3～12歳は2千円、3歳未満は無料。定員20人。希望者は17日までにJTBのホームページから申し込む。JTB中国四国☎082（249）7161。（森戸新士）

中国新聞：平成 29 年 8 月 8 日（火）

（４）募集チラシ（制作物）

募集チラシ･4,000 部印刷

表面

裏面

（５）モニターツアー効果検証

本ツアーの内容、結果に関して、定量および定性の面から以下の効果検証が確認された。

＜定量＞

本ツアーの申し込みは、0 だった。

➡最少催行人数を満たさなかったため、本ツアーの催行を中止した。

＜定性的な検証＞

本ツアーへ申し込みが最少催行人数を満たさなかった理由を探るために、子育て世代の母親らに対してヒアリング調査を実施し、以下のような意見が得られた。

- 平日と土日の 1 泊 2 日では、家族（夫婦）での参加が難しいとのこと。
- 子どもが小さいと 1 泊 2 日では、体調不良が起きる可能性が高く不安とのこと。

４－３　第８回モニターツアー

（１）概要

目的：広島都市圏から廿日市市（廿日市・大野地域）への移住定住を促進するために、子育て世代を中心としたモニターツアーを実施し、彼らに対して廿日市市での暮らしや仕事などライフスタイルのイメージを伝えることで、廿日市市への理解と関心を高め、移住先の候補として検討してもらうために実施した。なお、宮浜温泉など観光地としての魅力を PR するために、鳴川海岸にて、SUP 体験を実施した。

日時：2017 年 12 月 3 日（日）　9:15～17:00　＜日帰り＞

集合場所：JR 廿日市駅北口（北口階段下のロータリー付近）＜※9:00 受付 9:15 出発＞

参加条件：廿日市市での暮らしに関心のある方。アンケートにご協力いただける方。

募集人員：20 名（最少催行人員）

訪問場所等：

JR 廿日市駅

- 廿日市駅周辺の再開発（木造の駅舎、周辺の再開発や廿日市地域の概要説明）
- 福祉拠点「あいプラザ」の施設見学
- 隣接の「けん玉公園」見学
- にこにこの森保育園
- 平良小学校の見学
- 住宅団地の見学（バス車窓：住環境・坪面積・価格帯・販売状況など説明）
- 小田島公園※時間の都合上、またバスでの進入が困難なため向かわず。
- 宮浜グランドホテル（昼食交流会）
- 鳴川海岸（SUP 体験）
- 宮浜グランドホテル※女将のお話、カフェタイム、意見交換（質疑）、アンケート記入

JR 廿日市駅

（２）ツアーの募集方法（案内・告知等）

今回のモニターツアーは、株式会社ハーストーリィプラスの会員等に対して、集客広報を行い、参加者を募った。

（３）モニターツアー効果検証

本ツアーの内容、結果に関して、定量および定性の面から以下の効果検証が確認された。

【定量】

- 本ツアーの参加者は４組 13 名。内訳は以下の通り。
  参加者：13 名（内・大人男性２名、大人女性４名、子ども７名）
  参加者の居住地域：西区×2、南区、安佐北区

【定性】

- 保育所経営者と連携した案内により、廿日市市の保育事情を詳細に伝えることができた。
- 小学校の施設の見学、教育的な取り組みを知ることで廿日市市が教育に力を入れていることを伝えることができた。
- 大野地域について、宮浜温泉、鳴川海岸、SUP 体験等を通じて、観光的な魅力を伝えることができた。
- 大野地域に暮らす先輩移住者らとの交流を経て、大野地域の仕事と暮らしのスタイルについて伝えることができた。

（４）アンケート調査・結果概要

調査対象：大人６名（※小学生以下７名は対象外）

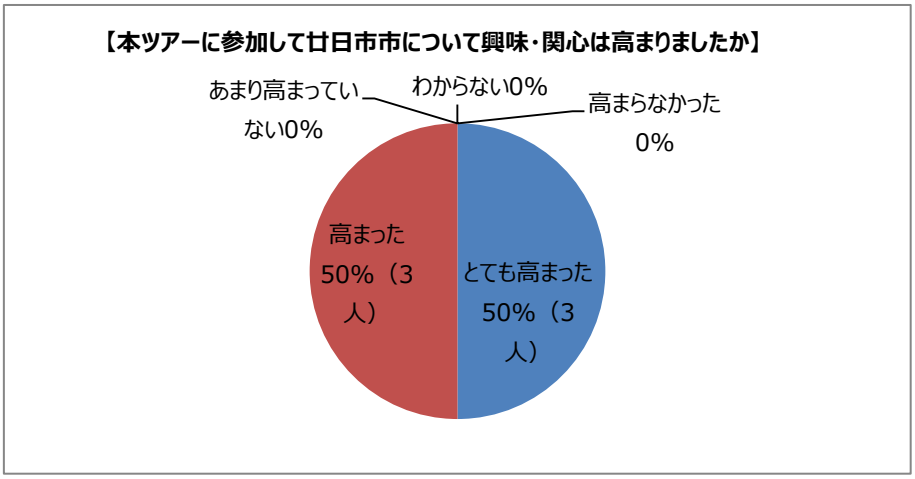
調査方法：アンケート直接配布・記述式

調査時期：宮浜グランドホテルにて、実施・即日回収　※回収率 100%

調査報告書：別冊の報告書を参照※以下一部抜粋

Q１　本ツアーに参加して廿日市市について興味・関心は高まりましたか？該当するもの１つに○をつけてください。上記を選択した理由について、お聞かせください。以下の枠内にご記入ください。

男女ともに「とても高まった」「高まった」のどちらかを選択しており、廿日市市への興味・関心が高まっていることが顕著に現れている。



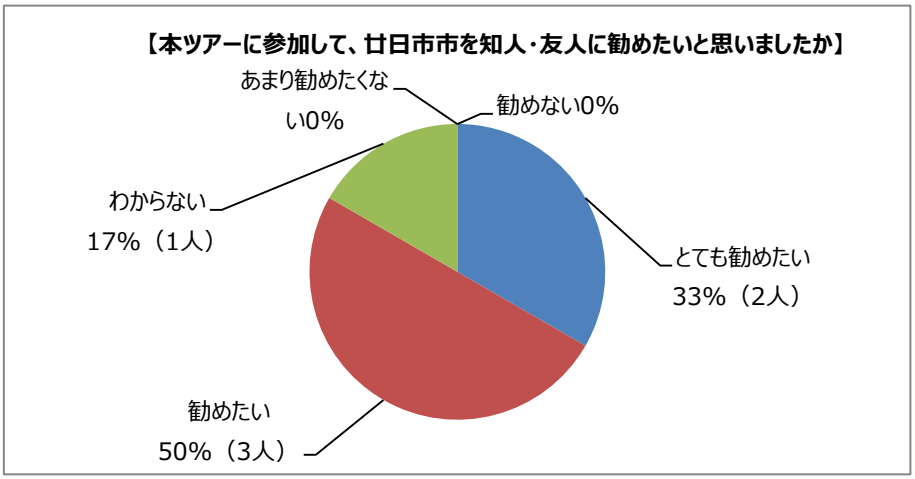
Q１-② 高まった理由

K.K	高まった／自然が良かった。海の近くに住むと SUP のようなマリンスポーツが身近になるな、とわかりあと買い物にも困らなそうだったので。
K.O	とても高まった／自然環境や住宅環境など教えていただいて、住みやすい町だと感じました。また、近くに住んでいても気づかない魅力がわかって良いツアーだと思いました。
G.K	とても高まった／広島市中心部へのアクセスの良さ、自然環境の多彩さが感じられた。具体的にここで生活する様子を想像しながらツアーを過ごせた。
G.M	高まった／中心部よりゆとりのある生活ができそう。街の流れる時間がのんびりしてそう。価格的にも手ごろで便利。「ぎり街」という表現も素敵。市内だと中学受験熱などが高くて興味の薄い私には廿日市が適度に街（中心地）にも近くて、子どもたちものんびりできそうで余暇が充実しそうだと感じた。
A.A	とても高まった／子育て環境に恵まれていると聞いていたが、どのようにいいのか具体的に知れて良かった。
F.M	高まった／今まで自分がイメージしていた廿日市市とまったくイメージが変わりました。中心地から少し離れているから不便だと思いましたが、充分不自由なく生活ができると思いました。施設もすごく充実してました。

Q2 本ツアーに参加して、廿日市市を知人・友人に勧めたいと思いましたか？該当するもの 1 つに○をつけてください。上記を選択した理由について、お聞かせください。以下の枠内にご記入ください。

「とても勧めたい」と「勧めたい」とポジティブな回答が合わせて 83%であり、回答者 6 人中の 5 人の回答であった。自由記述の回答には具体的な個人の気に入った点が述べられた。

モニターツアーに参加して、ほとんどの参加者が廿日市市を知人・友人に勧めたいということが顕著に表れている。



Q2-② 勧めたい理由

K.K	勧めたい／あいプラザで学生が勉強しているところを見て地域的な良さがあると思うから。
K.O	とても勧めたい／同世代（子育て）に向いている町だと感じたため。
G.K	わからない／プライベートを自然の中で充実させたいタイプの人などある程度趣向が限られると思うから（都心のタワーマンションが好きな人も多いので）
G.M	勧めたい／適度な感じが住みやすそうだと思った。平坦地だと公共施設がかたまっていて、道路も混んでなさそうで、山も海も近くて、中心地へも通勤圏なので、また個人のスタイルによって４つのエリアが選べるのも、懐が深くていいなあと思った。
A.A	とても勧めたい／広島市内（中区）から遠いというイメージがありまわりで住みたいと聞かないため、せっかくなら選択肢として勧めてみたい。特に教育にみな関心が高いのでその点でもおすすめしたい。
F.M	勧めたい／小さな子どもがいて引っ越しを考えている人・県外から来る人がいたら勧めたいと思いました。すごく環境が良いと思ったので、海・山に囲まれているのは贅沢な空間だと思いました。

（５）モニターツアーの様子

バス移動中・車中説明

子育て支援センター

けん玉公園

にこにこの森保育園

にこにこの森保育園

にこにこの森保育園

平良小学校見学

昼食交流会－①

昼食交流会－②

SUP レクチャー

SUP 体験@鳴川海岸

SUP 体験

鳴川海岸でビーチコーミング

SUP 体験

女将さんの話

４－４　第９回モニターツアー

（１）概要

目的：広島都市圏から廿日市市（吉和地域）への移住定住を促進するために、子育て世代の参加を中心としたモニターツアーを実施し、彼らに対して廿日市市での暮らしや仕事などライフスタイルのイメージを伝えることで、廿日市市への理解と関心を高め、移住先の候補として検討してもらうために実施した。なお、中山間地域への冬季の移住定住ツアーは楽しさだけではなく、厳しさもイメージしてもらうためのツアーとして企画した。

日時：2018 年 2 月 4 日（日）9:00～17:00　<日帰り>

集合場所：JR 廿日市駅北口（北口階段下のロータリー付近）＜※8:30 受付 9:00 出発＞

参加条件：廿日市市での暮らしに関心のある方。アンケートにご協力いただける方。

参加費：大人 1,000 円、子ども 500 円（3 才～12 才）※3 歳未満は無料（但し食事なし）

参加方法：チラシの配布、FAX・WEB からのお申込み

募集人員：20 名（最少催行人員）

訪問場所等：

JR 廿日市駅

- 道の駅「スパ羅漢」
- 吉和地域第 2 集会所付近
  - 雪かき体験、大根掘り体験
  - 田舎料理、猪肉、山草茶など（昼食交流会）
  - 吉和の生活情報・イベント情報提供
- 地域内見学（バス移動で主要な施設見学）
- 吉和学園訪問※学校紹介、カフェタイム、意見交換（質疑）、アンケート記入

JR 廿日市駅

（２）ツアーの募集方法（案内・告知等）

モニターツアーのチラシおよび各種メディアを通じて、ツアー参加者の募集を行った。案内・告知に関しては、ハーストーリィプラス（以下：HSP）の協力を得て実施。

■廿日市市モニターツアー　チラシ配布先

	名前	枚数	備考
SHOP	佐伯区民文化センター	30	
SHOP	皆賀公民館	30	
SHOP	プロマート五日市店	30	
SHOP	大竹市総合市民会館・総合体育館	30	
SHOP	大竹会館アゼリアホール	30	
SHOP	大竹市立図書館	30	
その他	社会福祉法人廿日市福祉会	30	
SHOP	宮内市民センター	30	

その他	岩国市役所	30	
その他	岩国市観光協会	30	
その他	美容院 hana 井口店	30	
その他	廿日市スポーツセンターサンチェリー	30	
その他	ほの湯　楽々園店	30	
その他	佐伯区役所別館６階おやこっこさえき	30	
その他	佐伯区役所本館２階地域起こし推進課	30	
その他	廿日市市総合健康福祉センターアイプラザ	30	
その他	廿日市市総合健康福祉センター子育て支援センター	30	
その他	廿日市市中央市民センター	30	
SHOP	ゆめタウン廿日市	90	
その他	濃彩館ファーマーズマーケット	30	
SHOP	うさぎっこランド	30	
その他	喫茶室屋根裏	30	
その他	ゆめマート八幡店	30	
その他	わらうかど庭	30	
その他	石内ペノン　ECHEL	30	
SHOP	石内ペノン　ANT　BAKERY	30	
SHOP	東区民文化センター	30	
SHOP	じゃんじゃか亭	30	
SHOP	HerstoryHouse	50	
SHOP	リシュラ	50	
その他			
合計		1,000	

■WEB

	HSP運営サイト「プラスなプレス」	
	HSP運営サイト「オヤとコと。」	
	HSP　FACEBOOKページ	
	広島経済新聞WEB版	
	TAUのＨＰ、FACEBOOKページ	
	広島県交流支援サイト	

■紙媒体

	中国新聞募集記事	

（３）メディア掲載･募集告知

雪かきや野菜収穫
吉和の暮らし体験
来月4日 バスツアー

廿日市市は2月4日、西中国山地の吉和地域をバスで巡り、住民との交流や里山暮らし体験をするバスツアーを開く。移住者を呼び込もうと、2016年から市内各地で開く山で暮らす魅力など

9時に出発。午前中は、冬の吉和で欠かせない雪かきを民家で体験し、雪に覆われた畑で野菜を収穫する。昼食後もツアーを企画し、参加者と住民の交流の機会をつくる予定。

診療所を訪問。午後5時に同駅で解散する。

市はこれまで沿岸部や中山間地域を巡るツアーを6回催し、市内外の計91人が参加した。参加者からは「地域の住環境が分かった」、交流した住民からは「移住者を迎える意識を持てた」などの反響があった。市は今

を募っている。

JR廿日市駅を午前

3～12歳は500円、3歳未満は無料。定員20人。希望者は22日までにJTBのホームページから申し込む。TB中国四国☎0822（249）7161。（森戸新士）

中国新聞：平成 30 年 1 月 19 日（金）

（参考）メディア掲載･募集告知　※本委託業務には含まない

SUUMO マガジン（2017 年 12 月 13 日発行号）

（４）募集チラシ（制作物）

募集チラシ・2,000 部印刷

表面

裏面

（５）モニターツアー効果検証

本ツアーの内容、結果に関して、定量および定性の面から以下の効果検証が確認された。

【定量】

- 本ツアーの参加者は 7 組 16 名。内訳は以下の通り。
  参加者：16 名（内・大人男性 3 名、大人女性 8 名、子ども 5 名）
  参加者の居住地域：和木町、呉市、西区、南区、安佐南区、佐伯区、廿日市市

【定性】

- 参加者と地域住民のつながりを実現。仕事や空き家情報に関して、情報交換ができる関係の構築に貢献。参加者の多くが再度の来訪意向を示した。
- 自然体験の場としての認知度が向上。参加者の多くが観光を踏まえて訪問意欲が高まる。
- 地域住民の移住者を受け入れるためのイメージやノウハウなど、経験値を積む。
- テレビの取材を受け、地域住民の取り組みの意義や内容が普及した。

➡モニターツアー実施の成果として、移住見込み層の関心度 UP、移住見込み客の獲得に貢献。

（６）アンケート調査･結果概要

調査対象：大人 11 名（※小学生以下 5 名は対象外）

調査方法：アンケート直接配布･記述式

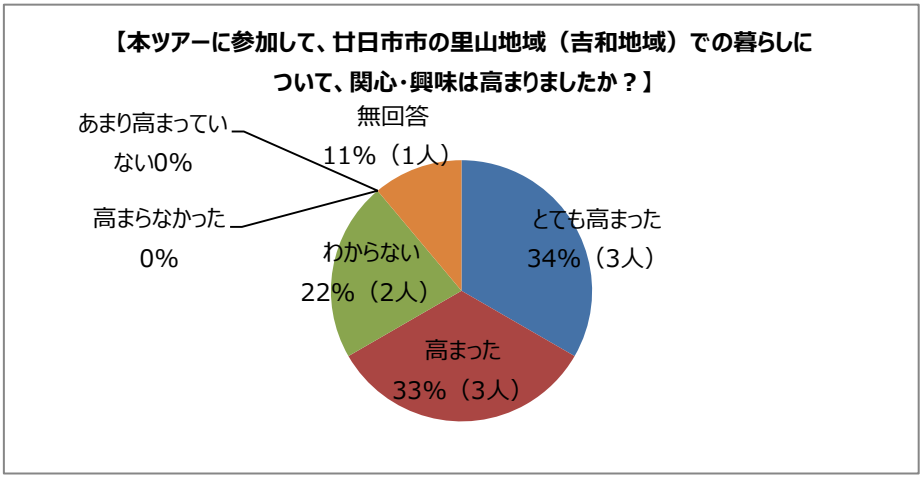
調査時期：吉和学園にて、実施･即日回収　※回収率 100%

調査報告書：別冊の報告書を参照

Q１　本ツアーに参加して、廿日市市の里山地域（吉和地域）での暮らしについて関心･興味は高まりましたか？該当するもの 1 つに○をつけてください。上記を選択した理由（魅力や課題に感じたことなど）についてお聞かせ下さい。

「とても高まった」「高まった」という前向きな回答は合計 9 人中 6 名であった。それ以外の回答はわからないが 2 名と無回答が 1 名であった。

モニターツアーに参加して、約 6 割の参加者が、廿日市市への関心･興味が高まっている。



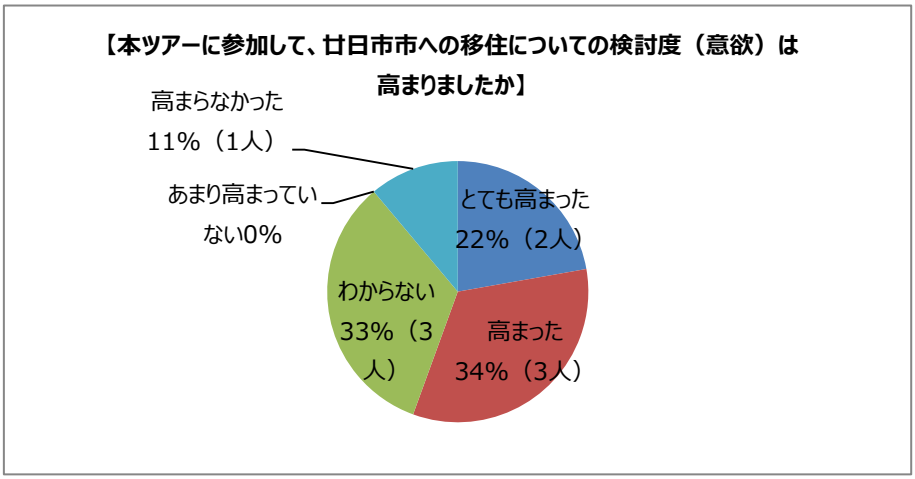
Q1-②　高まった理由

K.M	高まった／若年層の育成に対する関係者の方々の姿勢に共感をおぼえました。中高年層（同じ世代とおぼしき）の移住希望者の方とも交流でき将来的な展望も少なからず芽生えました。
S.T	とても高まった／吉和の村全体のアットホームな雰囲気。豊かな自然。広島、廿日市（海岸部）へ 1 時間という利便性など。
S.S	高まった／地元の人たちとの話
K.N	高まった／教育環境が良かった。地域住民の方々が親切だった。
T.Z	わからない／交通機関に不安があるため
O.M	わからない／吉和は高地にあり、生活環境がきびしい

Q2　本ツアーに参加して、廿日市市への移住についての検討度（意欲）は高まりましたか？該当するもの１つに○をつけてください。

前向きな「とても高まった」と「高まった」という回答が半数を超える９名中５名であった。一方「わからない」が３名、「高まらなかった」が１名であった。

モニターツアーに参加して、約半分の参加者が、移住の検討度が高まっている。



（７）モニターツアーの様子

道の駅「スパ羅漢」

集会所前・テレビカメラの出迎え

集会所・プログラム説明

雪かき体験

雪かき体験

雪かき体験・テレビインタビュー

雪の中の大根掘り体験

雪の中の大根掘り体験

お茶を煎る体験

昼食の準備

吉和地域の説明

昼食交流会

吉和学園の紹介

ぜんざい等の振舞

アンケート記入・テレビインタビュー

５　住まいに関するフェア等への出展によるプロモーション

広島都市圏の子育て世代が廿日市市に転入するきっかけとして、子育て環境を重視した住まいの購入が挙げられる。そこで、集客力が高い住まいに関するフェア等に出展し、住宅購入を検討している層に対し、直接かつ効果的なプロモーションを実施した。

５－１　中国新聞「住まいる博 2017」について

住宅購入を検討している層に対し、直接かつ効果的にPRするプロモーションの場として、県内で最大規模の住宅関係のイベントである、中国新聞「住まいる博2017」に自治体として初めて出展した。

（１）概要

「住まいる博 2017」の概要は以下の通りである。

開催日時：2017 年 9 月 16 日(土) 10:00～17:00、17 日(日) 10:00～16:00
開催場所：広島県立総合体育館大アリーナ『広島グリーンアリーナ』ほか
主催：中国新聞社
運営：中国新聞社
来場者数：7,850 人
出展企業：40 社

◆定住促進ゾーン：廿日市市
◆マンションゾーン：七護エステート／章栄不動産
◆リフォームゾーン：エミシア／住友不動産新築そっくりさん／住友林業ホームテック／道建設／ドゥクラフト土肥家具／パナソニックリフォーム／マエダハウジング
◆戸建・リフォームゾーン：アイレストホーム／アキュラホーム／イワキ／工匠くつろぎ／石州瓦工業組合／積和不動産中国／創建ホーム／創建ホームグループリフォームウィズ／トータテグループ／日興ホーム／プレザーホーム／山根木材／悠悠ホーム／ラーバン
◆生活環境ゾーン：ちゅピＣＯＭふれあい／ちゅピＣＯＭひろしま
◆金融・相談ゾーン：ＪＡバンク広島／住宅金融支援機構中国支店／全労済広島推進本部／中国労働金庫／広島銀行／広島信用金庫／ひろしま住まいづくり支援ネットワーク／もみじ銀行
◆暮らし快適ゾーン：ウッドワン／タカラスタンダード／ＴＯＴＯ
◆その他：牛田住宅情報スクエア・アスタ／ちゅーピー住宅展示場／ちゅーピー住まいる／
※50 音順

（２）廿日市市の出展概要

出展コマ：１コマ（間口 4000mm×奥行き 3000mm、パネルの高さ 2500mm）

パネル仕様：システムパネル式
出展エリア：定住促進ゾーン
ステージ PR：16 日（土）1 回出演、17 日（日）2 回出演
広告出稿：イベント告知新聞広告

（３）出展ブース実施内容

（ａ）ブース内でのイベント

- 廿日市市の住みやすさ PR『はつかいちん家のお父さんと母さん登場！』
- 廿日市市のおすすめ物件(土地・建物)の紹介『住まいる廿日市 BOOK』
- 『廿日市市のおうちを彩ろう』お子様のためのぬり絵コーナー
- 『目指せ！けん玉世界一！！』砂原先生によるけん玉教室
- アンケートに答えて『もみじ饅頭食べ比べセット』プレゼント

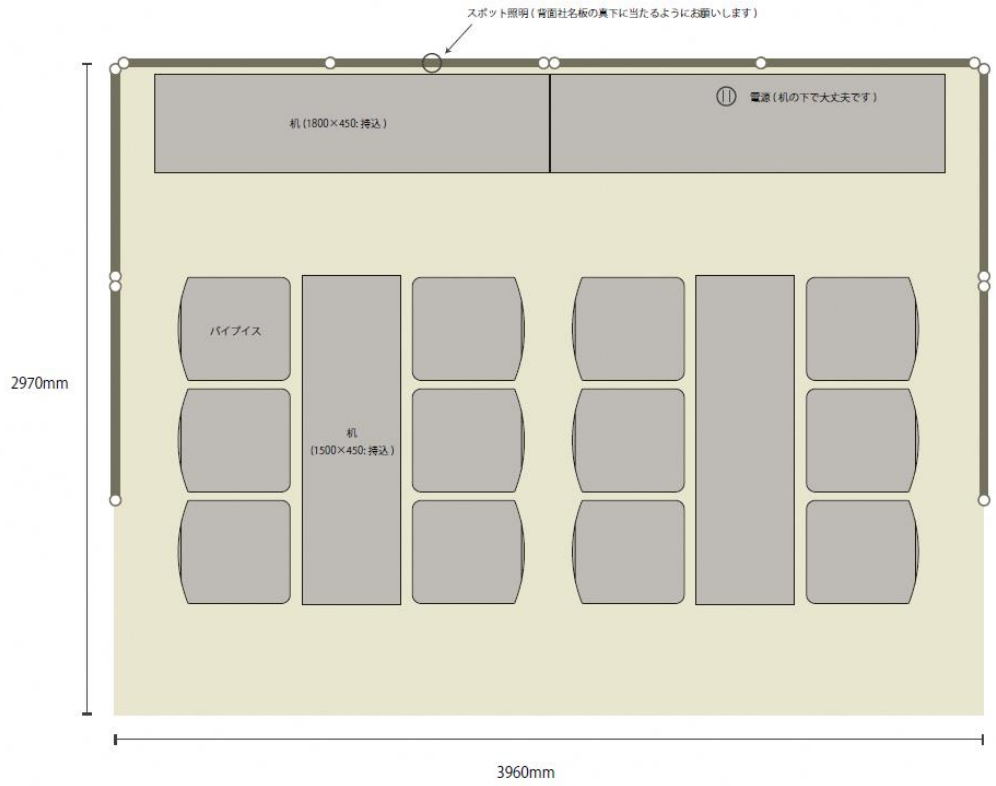
（ｂ）展示・装飾

- パネル展示『廿日市市の窓から』
- リビングをイメージしたテーブルイスの準備
- VTR による廿日市市の PR

（ｃ）資料配付

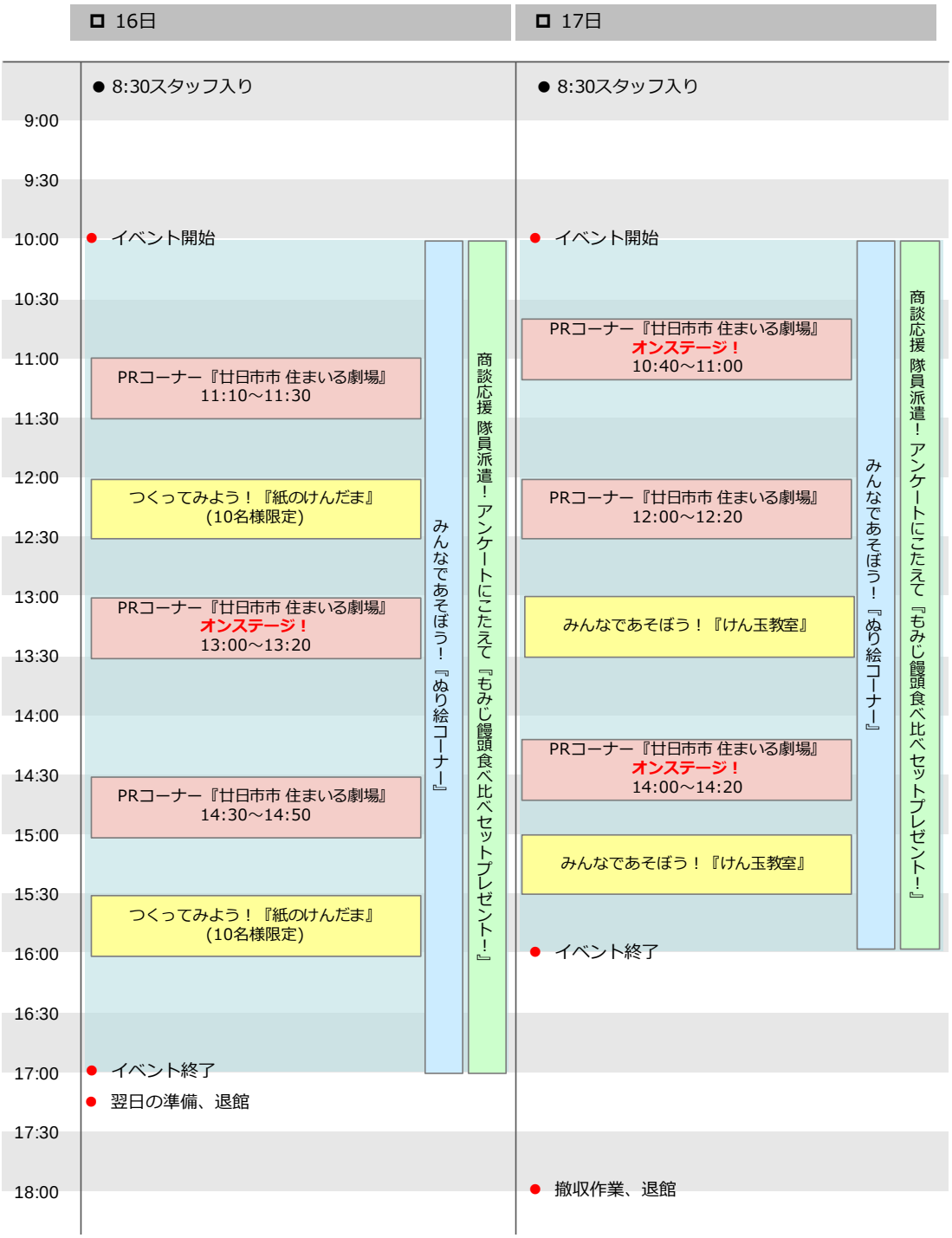
- 既存の PR チラシ・リーフレット等

（ｄ）ブースレイアウト



（４）運営スケジュール

運営スケジュールは以下の通り。



（５）廿日市市の住みやすさ PR『廿日市市　住まいる劇場』

ねらい：『廿日市市の住みやすさ』を寸劇にして、タレントが楽しくアットホームに廿日市市の PR を行うことで印象に残るようにした。また、タレントが出展ブースに訪れることで、場の盛り上がりを演出、来場者との交流を実現し、他ブースとの差異化を図った。

実施内容：

1. 事前に PR ポイントを廿日市市から提示し、台本にしてタレントにポイントをレクチャーした。
2. 出展ブースの演出にふさわしい衣装を準備し、20 分程度の構成台本を準備。合わせて、ステージ用には、タイトルテロップも作成し、より効果的に訴求内容を実現した。
3. お客様との掛け合いや会話もできるよう、ある程度、柔軟な構成内容とし、当日現場の雰囲気や状況に対応できるようにした。
4. ２名のタレントのうち１名は、廿日市市出身の藩飛例 松本さんを選出し、廿日市の PR ポイントが効果的に行えるようにした。
5. 出演は１日３回、一回の出演（ブースの滞在時間）は 20 分程度で実施した。

出演：フロントライン 石原誠（広島県広島市出身）左
藩飛例 松本貴明（広島市廿日市市出身）右

準備物：劇場演出に必要な小道具や衣装

控室：16 日：ミーティングルーム（9:00～16:00）
17 日：中会議室（9:00～15:00）

ブースの中での実施の様子

ステージの中での実施の様子

17 日（日）には、砂原先生にもステージにご登壇頂いた

ステージプログラム：ステージにて、16 日は一コマ、17 日は二コマそれぞれ 20 分間ずつの枠で『廿日市市　住まいる劇場』を実施。家族連れの人気の高いプログラムの前に実施することで、集客力と PR 効果の高いプログラムとなった。

	9月16日(土)	9月17日(日)
8:30	■入場・開場準備 ▼通電開始	
9:00		■入場・開場準備 ▼通電開始
30	開会式（関係者のみ） 9:40～9:50 主催者挨拶	
10:00	<10：00開場>	<10：00開場>
	CM 1セット ※10min	CM 1セット ※10min
30	オープニング会場&イベント案内 10：15～10：20	オープニング会場&イベント案内 10：15～10：20
	住まいるブースレポート！ 10：30～11：10	CM 2セット ※20min プレゼン②廿日市市 10：40～11：00
11:00	CM 2セット ※20min	CM 1セット ※10min
30	プチプラでかなう すっきりお洒落な部屋づくり ﾙｰﾑｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 瀧本真奈美さん 11：30～12：00	宇宙戦隊キュウレンジャー ショー （ショー終了後に握手撮影会あり） 11：15～11：55
12:00	CM 6セット ※60min	CM 3セット ※30min
30		プレゼン③住宅金融支援機構中国支店 12：30～12：50
13:00	プレゼン①廿日市市 13：00～13：20	CM 1セット ※10min おさよさんの無理なくつづく家事ぐせ 整理収納ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ おさよさん 13：00～13：40
30	CM 1セット ※10min ANZEN漫才 住まいるお笑いライブ！ 13：30～14：00	CM 2セット ※20min
14:00	CM 6セット ※60min	プレゼン④廿日市市 14：00～14：20
30		宇宙戦隊キュウレンジャー ショー （ショー終了後に握手撮影会あり） 14：20～15：00
15:00	プチプラでかなう すっきりお洒落な部屋づくり ﾙｰﾑｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 瀧本真奈美さん 15：00～15：30	CM 3セット ※30min
30	CM 6セット ※60min	住まいる大抽選会！ 15：30～15：50
16:00		<16：00閉場>
30	住まいる大抽選会！ 16：30～16：50	閉会式（関係者のみ）客だし後～
17:00	<17：00閉場>	

※プログラムは変更になる場合があります。ご了承ください。

（６）砂原先生によるけん玉教室『目指せ！けん玉世界一！！』

ねらい：廿日市市発祥で知られる「けん玉」を PR するとともに、パフォーマンスを披露することで注目を集めた。また、けん玉体験できる時間を作ることで、 出展ブースに盛り上がりを演出し、他ブースとの差異化を図った。

実施内容：

1. ９月 17 日（日）に砂原宏幸先生を招請し、デモンストレーションを行っていただいた。
2. その後、来場の子どもたちを呼び込んで、けん玉を貸し出し、砂原先生のけん玉教室を実施した。実施時間は約 20 分とし、1 日 2～3 回実施をした。

体験者数：約 40 名

実施の様子：

準備物：

準備物	仕様	数	手配
貸し出し用けん玉		20	JTB

（７）お子様のためのぬり絵コーナー『廿日市市のおうちを彩ろう』

ねらい：親子で「おうちのぬり絵体験」をしていただくことで、ブースでの滞在時間の延長を図り、廿日市市の PR を行うとともに、廿日市市で住宅という印象を深めた。

実施内容：

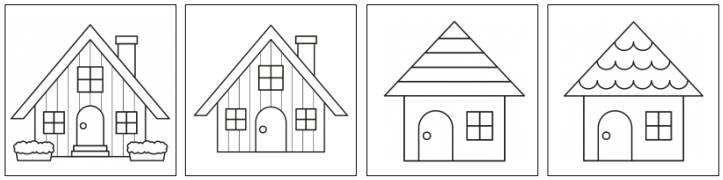
1. 専用台紙を用意し、会場を回遊する子ども連れのお客様に塗り絵の参加を促した。
2. スタッフは、ブース内に誘導し、塗り絵の準備をして、最初に廿日市市の住みやすさを、お子様連れのご家族とそのお子様に向けて紹介をした。
3. 「そんな廿日市市に住むとしたら、どんなおうちがぴったりかな？」となげかけて、親子でぬり絵を楽しんでいただいた。 ぬり絵が完成したら、バックパネルに貼り付けた廿日市市の MAP の好きな場所に貼り付けていただき、来場者の注目を集めた。
4. 子どもたちがぬりえを楽しんでいる間に、移住意向や住宅購入意向のあるご家族には、アンケートにお答えいただいた。

体験者数：2 日間合計･173 名

実施の様子

準備物･制作物

準備物	仕様	数	手配
おうちがたぬりえ台紙	特性、厚紙（はがき程度）	300	JTB
塗り絵用色鉛筆	子ども用	15	JTB
机	1500×900	1	JTB
パイプイス		12	JTB
案内サイン	A3 ラミネート	1	JTB



「ぬり絵」は 4 種類作成し、最初にお子様に選んでいただけるように準備をした。

（８）お子様のための工作コーナー『紙のけんだま』

ねらい：親子で「紙のけんだま」を手作りできる工作教室を実施することで、ブースでの滞在時間の延長を図り、廿日市市の PR を行うとともに、けん玉の魅力を伝えた。

実施内容：

1. 参加希望のお子様をブースで募集し、10 名様限定で参加していただいた。2 日目は 20 名様限定とした。
2. 作成キッドを一人にひとつ手渡して説明。
3. インストラクターが手順を説明して組み立てるお手伝いを実施(約 20 分)。
4. 準備したマスキングテークなどで装飾し、完成したら持って帰っていただいた。

体験者数：2 日間合計 30 名

準備・人員：

準備物	仕様	数	手配
紙けん玉キット	厚紙	30	JTB
装飾のための材料	子ども用	一式	JTB
案内サイン	A3 ラミネート	1	JTB

（９）廿日市市のおすすめ物件(土地・建物)の紹介『住まいる廿日市 BOOK』

ねらい：他出展社が提供している廿日市市の住宅・住宅地情報を『廿日市市域のおすすめ物件』として、一冊にとりまとめて配付することで 他事業者と連携し、より有効的な出展効果を図った。

実施内容：

1. 約一ヶ月前に行われる出展社会議にて、廿日市市として出展することを他事業者に告知した。
2. 事業者に『住まいる廿日市 BOOK』について企画を紹介し、情報提供を依頼した。
3. 出展当日は、『住まいる廿日市 BOOK』を廿日市ブースにお越しのお客様に配付した。
   ※二日間で約 411 部を配付。

仕様：以下のような仕様でクリアファイルを作成した。

準備物	仕様	数	手配
『住まいる廿日市 BOOK』	A4・ダブルポケット・クリアファイル ※コンテンツでのプレゼント用を含む	500	JTB

デザイン：以下のようなデザインでクリアファイルを作成した。

協力出展社：以下の事業者から住宅および住宅地情報の提供を受けて、資料を作成した。

情報提供出展社	情報提供物件数	掲載物件数
アイレストホーム	1	1
トータテ住宅販売	31	10
山根木材	1	1
積和不動産中国	7	7
創建ホーム	1	1
5 社	**41 物件**	**20 物件**

（10）アンケートに答えて『宮島口もみじ饅頭　食べ比べ』プレゼント

ねらい：アンケート協力特典として、「宮島口もみじ饅頭」の詰め合わせセット（60 セット）を企画した。これは大野東中学校の生徒が総合学習等から発案したものである。生徒たちの企画を地元事業者らで実現することと、そのことを来場者に伝えることでの内と外への双方の PR 効果を図った。

実施内容：

1. 大野東中学校の生徒達の調査結果をもとに 7 店舗をピックアップし、協力を要請。
2. うち、6 店舗からの応諾をうけ、封入する印刷物への情報提供をお願いした。
3. 催事の前々日に各店舗に伺い、商品を購入。詰め合わせのラッピングを施した。
4. 封入物には、クーポンをレイアウトし、後日、お客様の店舗への来店誘導を図った。

パッケージデザイン：

外装のデザイン

内装のデザイン

封入物デザイン：表面に趣旨と協力事業者の社名等を記載。裏面には大野地域のもみじ饅頭マップを制作した。包装紙がクーポン券となっており、来店の際にもみじ饅頭が 1 個プレゼントされる。

協力店舗：

協力店舗	クーポン回収数
藤い屋(宮島口店)	1
やまだ屋(宮島口もみじ本陣店)	0
みせん本舗　岩むら	0
おきな堂(広島宮島口店)	0
大伸堂製菓店	0
元祖もみぢ饅頭　高津堂	0

（11）パネル展示『廿日市市のおうちの窓から』

展示内容：

1. ブース内をリビング風に装飾し、来場者がリラックスできる空間を目指した。
2. 両サイドには廿日市の代表的景観を 2 枚の写真パネルに制作して配置、カーテンを付けて窓を演出した。

装飾：

（窓デザイン）風景写真を使って、窓から見える景色をイメージした。

向かって左

向かって右

（ロゴデザイン）

（実際の様子）

仕様・準備：

準備物	仕様	数	手配
風景パネル	B1 サイズ	4	JTB
元写真	ご提供	2	廿日市市
窓装飾	カーテンレールとカーテン	2	JTB
テーブルクロス		4	

（12）新聞記事

住まいる博で
廿日市をPR
市が初出展

廿日市市は16、17の両日に広島市中区の県立総合体育館である「住まいる博2017」に出展する。マイホームづくりを提案する住宅メーカーなどと共にブースを開設。まちの住み心地をアピールして移住や定住につなげる。住まいる博は5回目で、自治体の参加は初めて。

ブースに市職員を配置し、広島市中心部への通勤圏内で、世界遺産の島や自然豊かな中山間地域がある廿日市市の魅力をまとめた資料を配る。職員は他のブースにも出向き、市内の不動産情報に関心がある人の質問に応じる。

市は、定住促進のため2015年度にシティプロモーション室を新設し、住宅情報誌を通じたキャンペーンなどをしている。同室は「住まいに関心がある人が多く訪れる場で暮らしやすさをPRしたい」とする。住まいる博は中国新聞社主催。13年に始まり、毎回1万4千人前後が訪れている。

中国新聞：平成 29 年 9 月 16 日（土）

（参考）メディア掲載･募集告知　※本委託業務には含まない

SUUMO マガジン（2017 年 8 月 23 日発行号）

（13）効果検証

＜フェア等への来場者数＞

9月16日(土) 4,950名

9月17日(日) 2,900名　合計 7,850名

1日目(16日)は全体の来場は約5,000名とほぼ例年通りだったが、2日目(17日)は台風の荒天による影響を多大に受けたため、終日来場者数が伸び悩んだ。

＜住宅等の購入による本市への関心度向上と本市への移住の具体の検討度＞

住まいる博への来場者を対象に実施したアンケートから測定すると以下の通りである。（一部抜粋）

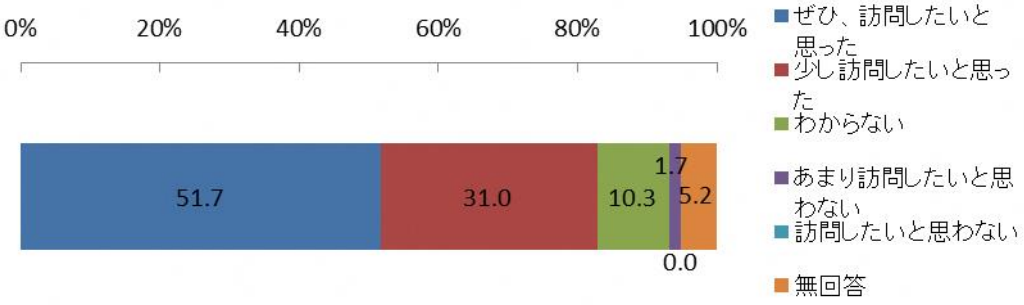
Q13 廿日市市のブースを訪れて、どのように思いましたか？以下について該当するものにお答え下さい。（Q5 で「現在、暮らしている人」を選択した人は回答不要） （N=58）

13-1 廿日市市を訪問したいと思ったか？

①ぜひ、訪問したいと思った ②少し訪問したいと思った ③わからない

④あまり訪問したいと思わない ⑤訪問したいとは思わない

○「ぜひ訪問したいと思った」が過半数で、「少し訪問したいと思った」と合わせて、訪問したいと思った人が約 8 割を占め、「訪問したいと思わない」人はなかった。

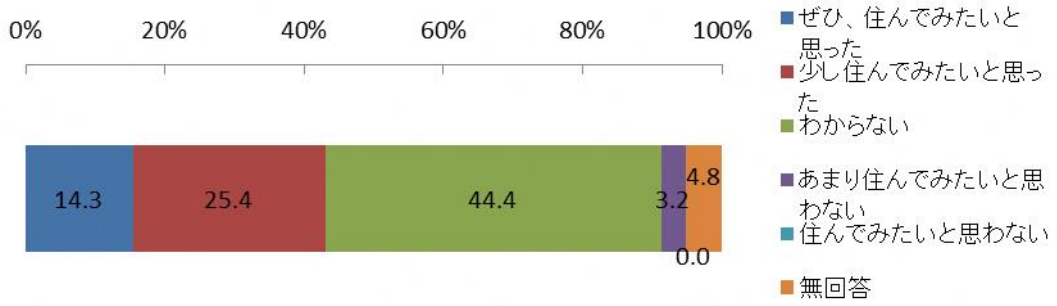


13-2 廿日市市に住んでみたいと思ったか？

①ぜひ、住んでみたいと思った ②少し住んでみたいと思った ③わからない

④あまり住んでみたいと思わない ⑤住んでみたいと思わない

○「ぜひ住んでみたいと思った」、「少し住んでみたいと思った」を合わせて、住んでみたいと思った人は全体の約 4 割で、「わからない」とほぼ拮抗している。



総括：住まいる博への出展により、廿日市市への訪問意欲は高まっており、アンケート回答者の4割は廿日市市に住むことに関心を示しており、効果的なPR事業だったといえる。

＜「住まい」に関する民間事業者と行政の連携の仕組みづくり＞

中国新聞社主催の「住まいる博」への出展は、廿日市市が自治体初であり、定住促進ゾーンという新たな領域をつくることが実現できた。また、来場者と直接話をする機会も多々あり、PR効果の高い事業だったといえる。

以下、現場での気付きである。

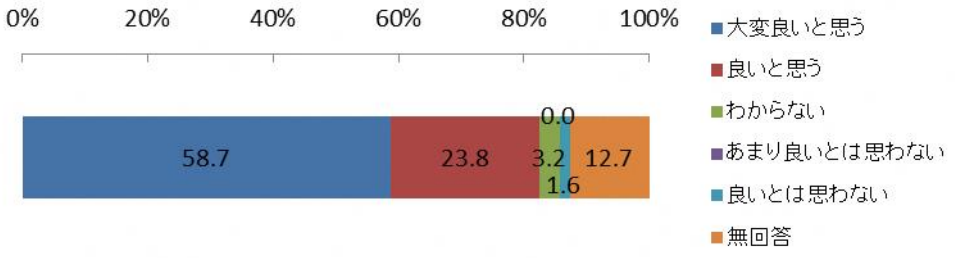
- メインステージの催事に影響を受けやすいブース位置ではあったが、スタッフによる個別の対応でお客様との距離を縮められる運営だった。
- 他の出展ブースと違い、子ども向けのプログラムを要していたので、長時間ブースに滞留してくださる家族連れが多かった。
- 「住まいる廿日市BOOK」はデザインもよくお客様に大変好意的に受け取っていただいた。
- ブース付近を往来するお客様に「廿日市市がどうして出展しているのか？なにをPRしているのか？」を尋ねられることも多く、シティプロモーションの取組をご紹介する機会に恵まれた。
- 個別の取組として、けん玉教室と紙けん作りを実施したが、お客様の反応がとても良く、お子様連れのご家族がとても熱心に取り組んでいた。その間アンケートや廿日市市の紹介など、しっかり会話（説明）をすることができた。なお、「けん玉」と「廿日市市」の結びつきについての認知度も高いことが確認できた。
- ステージとブースで「廿日市市住まいる劇場」と称し、吉本の芸人に扮装をさせて一種変わったPRを実施した。この施策については、まだブラッシュアップの余地が多大にありますが、市場・消費者とプロモーションとの距離を縮めるうえでは大変有効であると感じた。
- 大野東中学校にご協力いただいた「宮島口もみじ饅頭　食べ比べセット」は、手に取った時のお客様の充実感もさることながら、お土産としては十分お喜びいただけるものだった。「どこで買えますか？」というお客様からの声も数多くあった。

また、アンケートからは以下のような結果も得られており、高い評価を得たことが現れている。

Q11　住まいる博 2017 のようなイベントに自治体が出展して、地域の PR をすることはどのように思いましたか。（N=63）

①大変良いと思う　②良いと思う　③わからない
④あまり良いとは思わない　⑤良いとは思わない

○過半数が「大変良いと思う」とし、「良いと思う」を合わせると全体の 8 割以上が良い評価をしている。



６　地元学のプログラム開発

昨年度（平成28年度）に続き、市外への人口流出抑制や、Ｕターン移住者の増加及び交流人口の拡大などを狙いとした、魅力的な地元学のプログラムを開発し、地元への愛着心の醸成や廿日市市のシビックプライド形成のベースを構築することを目的に実施した。

なお、この取り組みは主に市内に住む子どもが、地域への誇りや愛着心を持つことにより、将来にわたって本市に住み続けることや、進学、就職、結婚などによりいったんは市外に居住した場合でも、再び本市に移住することで地域の継続性や地域力維持を図ることに資するものであることから、長期的取り組みとして位置づけ、継続的に実施している。

６－１　事業概要

（１）概要

昨年度、モデル校として立候補した「大野東中学校」を対象として、総合的な学習の時間を利用して、シティプロモーション業務における地元学のモデルの構築を試みた。

今年度は、新たな連携先となる学校を模索するため、阿品台東小学校、大野学園、宮島学園、廿日市高等学校、佐伯高等学校を訪問し、意見交換や学習指導に関するアドバイス等を実施した。

各校の取り組み状況や求められる支援内容は多岐にわたり、一様に事業に取り組むことの難しさが明らかとなった。長期的な位置づけの事業であることから、性急に在り方を決めるのではなく、昨年度と同様の事業を推進しつつ、引き続き、本事業の在り方を検討することとなった。

なお、本事業は、昨年度に続き、株式会社ジブンノオトの大野圭司氏をアドバイザーとして招請し、廿日市市教育委員会、廿日市市シティプロモーション室、JTB 中国四国で協議を重ねながら事業を推進した。

今年度の成果としては、昨年度に続き、廿日市市教育委員会との意見交換を重ね、一定の見解を共有できたことと、「ふるさと学習先進事例発表会」を開催することができたことが挙げられる。なお、発表会は昨年度に比べ、発表内容が向上していたように思われる。

次年度以降も、廿日市市教育委員会と廿日市市シティプロモーション室、そして教育機関や地域住民らとの連携は重要性が増すと思われ、継続的な事業にするための仕組みづくりが期待されている。

（２）事業経過一覧

今年度（平成 29 年度）は、以下のようなスケジュールで業務に取り組んだ。

回	日程	場所	内容
1	6 月 28 日㈬	廿日市高等学校	「地域の課題に向き合う」講演
2	7 月 1 日㈯	大野学園（大野中学校）	「大野元気プロジェクト（総合的な学習の時間）」授業参観：吉田博詞氏の講演
3	7 月 4 日㈫	廿日市市役所	主な協議：学校ニーズの共有・支援方法
4	8 月 4 日㈮	佐伯支所	主な協議：佐伯高校「さえき学」、部活、公営塾
5	8 月 9 日㈬	廿日市市役所	主な協議：大野東中「修学旅行」
6	9 月 22 日㈮	阿品台東小学校	3 年生「総合的な学習の時間」サポート、意見交換
7	10 月 4 日㈬	阿品台東小学校	3 年生「総合的な学習の時間」サポート、意見交換
8	10 月 12 日㈭	佐伯高等学校	「さえき学」授業参観、意見交換
9	10 月 13 日㈮	宮島学園（宮島中学校）	2 年生「総合的な学習の時間」授業参観、意見交換
10	12 月 12 日㈫	大野学園（大野中学校）	主な協議：ふるさと学習発表会
11	12 月 20 日㈬	廿日市高等学校	ポスターセッション
12	12 月 27 日㈬	廿日市市役所	主な協議：ふるさと学習発表会、廿日市高校の支援
13	1 月 11 日㈭	廿日市高等学校	ふるさと学習発表会のプレゼンテーション支援
14	1 月 12 日㈮	廿日市市役所	主な協議：ふるさと学習発表会、アンケート調査
15	1 月 23 日㈫	大野学園	ふるさと学習発表会のプレゼンテーション支援
16	2 月 1 日㈭	大野学園（大野西小学校）	大竹市・廿日市市教育研究会への参加
17	2 月 2 日㈮	大野福祉保健センター	ふるさと学習発表会リハーサル
18	2 月 3 日㈯	大野福祉保健センター	ふるさと学習発表会
19	2 月 26 日㈪	JTB 中国四国	主な協議：今年度のふりかえり、次年度の企画
20	3 月 26 日㈪	廿日市市役所	主な協議：今年度のふりかえり、次年度の企画

６－２　校内外での研修･学習支援

本事業を推進するにあたり、複数回の協議を重ねるとともに、以下の事業のサポートを行った。

（１）シティプロモーション室の講演（廿日市高等学校）

＜概要＞

日時：2017 年 6 月 28 日（水）

場所：廿日市高等学校

講師：シティプロモーション室

廿日市高等学校１年生の「総合的な学習の時間」において、廿日市市シティプロモーション室が『地域の課題に向き合う』の講師を務めた。人口減少社会の課題から始まり、他校の事例や市役所の業務などを通し、自身が街に出て課題を見つけることの大切さなどを伝えた。生徒たちは高い関心を持ち、聞き取りメモもよく書かれていた。高校生らしい視点での課題解決に向けた提案が期待される。

（当日の様子）

（２）シティプロモーション室の講演（阿品台東小学校）

＜概要＞

日時：2017 年 9 月 22 日（金）

場所：阿品台東小学校

講師：シティプロモーション室、㈱ジブンノオト

阿品台東小学校３年生の「総合的な学習の時間」において、廿日市市シティプロモーション室が『あじな台マップづくりについて』の講師を務めた。マップづくりでは誰に向けて何を伝えるのかが大切なこと、表現方法においては箇条書き、色分けを行うことなど、的確なアドバイスが行われた。児童たちは高い関心を持ち、多くの質問も出ていた。更に素敵なマップになることが期待される。

（当日の様子）

（３）シティプロモーション室の学習支援（阿品台東小学校）

＜概要＞

日時：2017 年 10 月 4 日（水）

場所：阿品台東小学校

講師：シティプロモーション室、㈱ジブンノオト

　阿品台東小学校 3 年生の「総合的な学習の時間」において、児童たちの校区の良さを PR するマップの発表会が行われた。その後、発表内容に対する講評を行った。授業後に、校長先生らとふるさと学習についての意見交換を行った。

（当日の様子）

（４）「さえき学」のヒアリング（佐伯高等学校）

＜概要＞

日時：2017 年 10 月 12 日（木）

場所：広島県立佐伯高等学校

　佐伯高等学校の活性化担当の地域支援員とともに、地域の自然や文化を探究する「さえき学（平成 26 年度～）」の授業参観を行った後、さえき学について担当の先生から説明をいただき意見交換を行った。校内体制や教育内容は充実しており、現状での特別な学習支援の必要性はないと思われた。

（当日の様子）

（５）「ふるさと学習」のヒアリング（宮島中学校）

＜概要＞

日時：2017 年 10 月 13 日（金）

場所：宮島学園・宮島中学校

宮島中学校の「ふるさと学習」において、宮島支所の職員が観光に関する生徒たちの質問に答えた。その後、3 班より宮島の活性化についてのポスターセッションによる発表が行われ、その講評を行った。授業後、校長先生らと意見交換を行った。

（当日の様子）

（６）「ふるさと学習発表会」のプレゼンテーション支援（廿日市高等学校）

＜概要＞

日時：2018 年 1 月 11 日（木）

場所：廿日市高等学校

講師：シティプロモーション室、大野圭司氏（㈱ジブンノオト）

ふるさと学習発表会のプレゼンテーションを支援するために廿日市高等学校を訪問。2 チームのプレゼンテーションを拝見し、ブラッシュアップを目的にアドバイスを実施。生徒たちは、廿日市市の商店街と高齢者の課題に着目し、解決のための独自の提案がされており、充実した内容だった。

（７）キャリア・スタート・ウィーク推進委員会（廿日市市役所）

＜概要＞

日時：2018 年 1 月 12 日（金）

場所：廿日市市役所

講師：廿日市市教育委員会、大野圭司氏（㈱ジブンノオト）

次年度のふるさと学習の推進校を発掘するために、キャリア・スタート・ウィーク推進委員会にて、次期学習指導要領に求められるキャリア教育の事例について情報を提供し、担当教員と意見交換を行った。

（８）「ふるさと学習発表会」のプレゼンテーション支援（大野学園）

＜概要＞

日時：2018 年 1 月 23 日（火）

場所：大野学園（大野西小学校、大野中学校）

講師：シティプロモーション室、廿日市市教育委員会、大野圭司氏（㈱ジブンノオト）

ふるさと学習発表会のプレゼンテーションを支援するために、大野学園を訪問。大野西小学校は、米づくり、シーカヤック、穴子をテーマにした学習。大野中学校は、宮島へのインバウンドや妹背の滝等の地元の良さについて学習。それぞれの学習内容の表現手法についてアドバイスを行った。

（９）大竹市･廿日市市教育研究会（大野学園）

＜概要＞

日時：2018 年 2 月 1 日（木）

場所：大野学園

講師：廿日市市教育委員会、大野圭司氏（㈱ジブンノオト）

ふるさと学習発表会に向けて、大野西小学校の総合的な学習の時間を授業参観。授業後、次年度のふるさと学習の推進校を発掘するために、大竹市・廿日市市教育研究会、総合的な学習の時間の部会に参加し、廿日市市のふるさと学習について情報提供を行った。

６－３　ふるさと学習先進事例発表会

廿日市市内の児童生徒に「ふるさと廿日市」への愛着と誇りを持たせ、児童生徒の発信力により、市民・事業者らとその思いを共有するため、昨年度に続き、平成 29 年度（第 2 回）も開催した。

（１）実施概要

日時：2018 年 2 月 3 日（土）　10:00～12:00

会場：大野福祉保健センター

プログラム：

１．開会

２．学習発表

（１）大野東中学校 2 年生

・東京修学旅行報告「広島大野　おいしい　いいもの　きてみん祭」

（２）廿日市高等学校 1 年生

・MAP で GO!!GO!!廿日市

・明るく楽しい廿日市～老人天国の街へ～

・廿日市の産業活性化について

（３）大野学園

・大野西小学校 5 年生：大野のよさを発見しよう

・大野中学校 2 年生：大野のよさを発信しよう

３．講評

４．閉会

司会進行：大野慶子　氏

コーディネーター：株式会社ジブンノオト　代表取締役　大野圭司　氏

参加者：延べ約 120 人（※発表者含む）

ふるさと学習の募集チラシ

（当日の様子）

リハーサルの様子

研究発表（掲示物）

受付の様子

司会進行：大野慶子氏

奥教育長挨拶

コーディネーター：大野圭司氏挨拶

大野東中学校　発表

会場の様子

廿日市高等学校　発表

大野さん質問の様子

大野学園　発表

大野学園　発表

大野圭司氏　講評

分権政策部　部長　閉会挨拶

記念撮影

（２）新聞記事

小中高生発見 廿日市の魅力

きょう４校が発表会

廿日市市の小中高4校の児童生徒が、自分たちで調べた地域の魅力や課題を報告する発表会が3日、同市大野の大野福祉保健センターである。

大野東中2年は、修学旅行先の東京で大野特産のアサリなどをPRした活動を伝える。廿日市高1年は、高齢者が活躍できるまちづくり案を説明。自分たちで作った地域の店や名所を紹介するマップも来場者に配る。大野西小5年と大野中2年は、移住者に聞いた地域の魅力やお砂焼、和太鼓などの伝統を発表する。

午前10時から正午までで、無料。同市では進学や就職に伴う若者の市外転出が目立っており、地域への愛着を深める学校教育を通じて将来的なUターンにつなげようと、市が企画した。昨年に続き2回目。

（森戸新士）

中国新聞：平成 30 年 2 月 3 日（土）

＜関連記事･参考資料＞

大野東中生発信 地元の味と魅力

２年生 東京に修学旅行へ

修学旅行を前に、大野地域のＰＲ方法を語り合う生徒

廿日市市大野の大野東中の2年生137人全員が25日、修学旅行先の東京で大野地域のPR活動をする。特産のアサリやもみじまんじゅうを中心にアピールする。入学時からの学習で愛着を深めた地元の魅力を発信しようと意気込んでいる。

（山瀬隆弘）

銀座にある県のアンテナショップTAU（タウ）と千代田区有楽町の東京交通会館が会場。タウでは自作のパワーポイントも交えてアサリを紹介する。収穫時に機械を使わず手で掘ることや、他県産と比べた身の大きさなどを伝える。おいしさを体感しながら温まってもらおうと、アサリのクラムチャウダーを200食振る舞う。

交通会館では大野の宮島口地区にある4店のもみじまんじゅうを売る。味の特色を比べられるよう、各店のこしあん味の詰め合わせも用意した。

生徒は2016年の入学後、総合的な学習の時間で地域の魅力を学んできた。アサリの収穫体験やもみじまんじゅう店での職場体験を通じて愛着を深める一方、観光客へのアンケートでは、宮島の対岸にありながら知名度が低いという大野地域の課題も分かった。

アサリなど紹介や販売

PR会には、広島東洋カープのグッズも持ち込む。若手選手の寮がある地域として覚えてもらおうという工夫だ。大杉幸穂さん(14)は「アサリのおいしさを伝え、大野へ買いに行こうと思わせたい」。平野萌恵さん(14)は「店ごとに味のこだわりがあるもみじまんじゅうは大野の自慢。おいしい食べ方も教えたい」と話す。

中国新聞：平成 30 年 1 月 29 日（月）

スポーツニッポン：平成 30 年 1 月 21 日（日）

（３）効果検証

【定量】

- 廿日市市内の小中高校に通学する生徒が登壇し、学習成果を発表することで、廿日市市に対する愛着や誇りの醸成に貢献した。
- 大野東中学校２年生、廿日市高等学校１年生、大野西小学校５年生、大野中学校２年生、およびその学校関係者に対して、シティプロモーション事業活動を普及した。
- ふるさと学習先進事例の発表会の実施で、市内外のからの来場者約 120 人に対して、シティプロモーション事業活動を普及した。

【定性】

- 廿日市市の紹介、学校の取り組み、シティプロモーションの役割について説明することで、事業に対する関心を高めた。
- 発表会（学習のプロセス）を通じて、生徒たち（登壇者以外を含む）の学習と発表のスキルアップおよび、地元理解と愛着の向上を促進することに貢献した。
- 教育委員会・学校・先生とシティプロモーション室の関係構築をつくるとともに、地域の事業者らとの接点を構築することに貢献した。
- 「ふるさと学習先進事例の発表会」の実施による小中高の教員・生徒らの交流の機会を創出。また、生徒らの保護者に対して、シティプロモーション事業活動の意義の普及と認知向上に貢献した。
- ふるさと学習の全市的な取り組みの促進に貢献した。

（４）効果検証（WEB 効果測定調査より）

WEBによる効果測定調査では、ふるさと学習の発表会の認知度と取り組み評価について、以下のような結果が得られた。（WEB 効果測定調査より抜粋）

Q6-1 廿日市市の「ふるさと学習発表会」を知っていますか？

全体では、「知っている」と回答された人は 5.5%となっている。

広島都市圏と廿日市市を比較すると、廿日市市では、「知っている」と回答される人が 8.4%と、広島都市圏と比べてやや認知率が高い傾向を示している。

図 27　「ふるさと学習発表会」認知率（全体）（n=613）

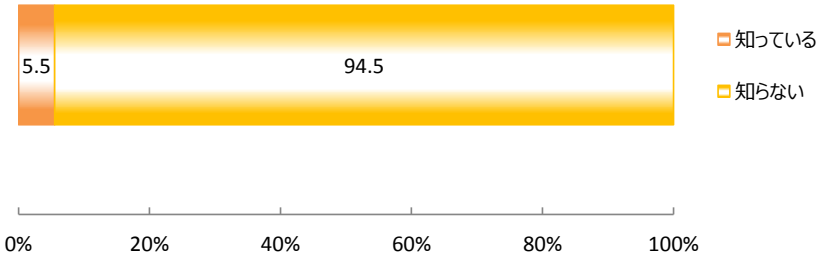
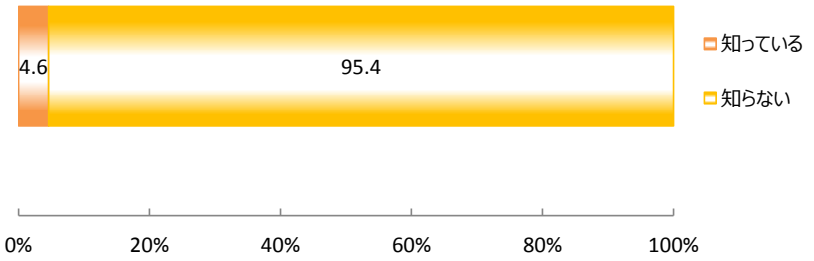
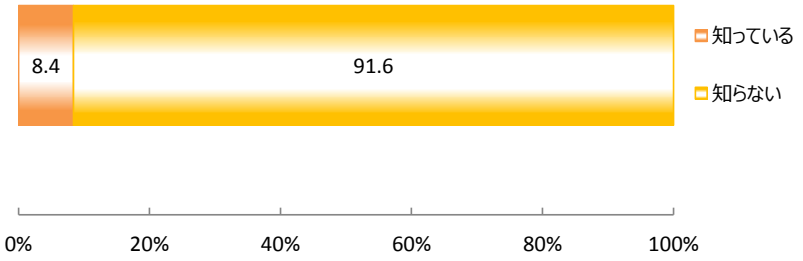


図 28　「ふるさと学習発表会」認知率（広島都市圏、廿日市市）

【広島都市圏】（n=459）



【廿日市市】（n=154）



Q6-2 廿日市市の「ふるさと学習発表会」の取り組みについて、どのように思いますか？

全体では、「非常に良いと思う」と回答された人は 4.2%、「良いと思う」と回答された人は 44.4%と好意的な評価が約半数を占めている。

広島都市圏と廿日市市を比較すると、大きな差はみられない。

図 29　「ふるさと学習発表会」評価　（全体）（n=613）

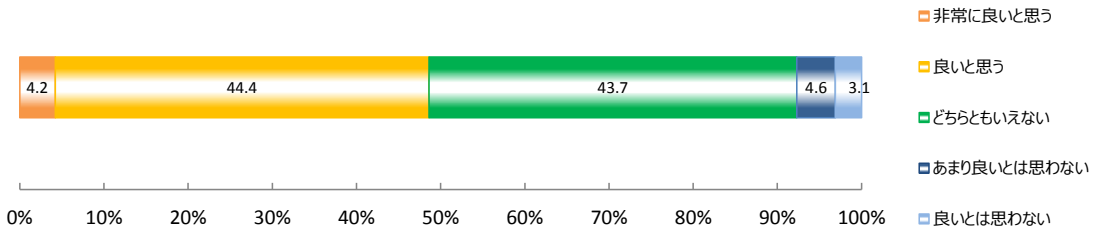
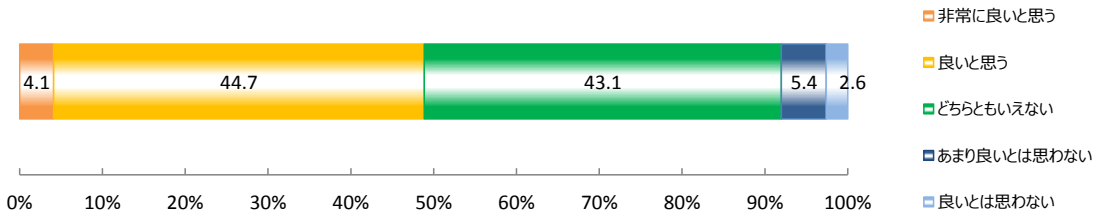
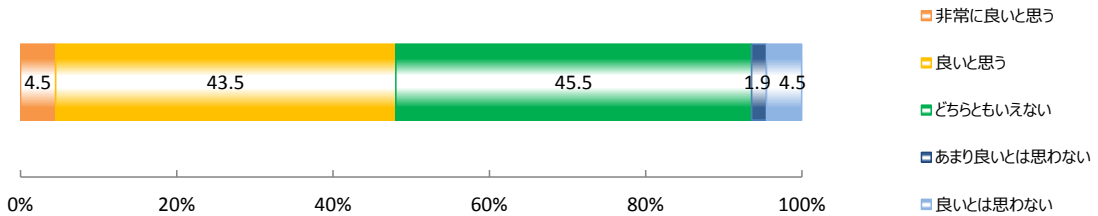


図 30　「ふるさと学習発表会」評価（広島都市圏、廿日市市）

【広島都市圏】（n=459）



【廿日市市】（n=154）



７　ウェルカムボードの制作

廿日市市への転入理由等の情報収集及び定住促進のＰＲを目的として、回答者に抽選で本市ゆかりの記念品（オリジナルウェルカムボード）を進呈するアンケートを実施した。

７－１　ウェルカムボードの概要

記念品ウェルカムボードは、廿日市市への転入者全員へ配布する転入セットにチラシを同封し、チラシに記載したＱＲコードを読み取り専用応募フォームから申し込むことで、アンケートに協力後、抽選で進呈される。

仕様　材質：市の木「桜」
サイズ：縦１５ｃｍ横２０ｃｍ幅２ｃｍ
印刷：プリント
数量：10 枚程度
デザイン：県内一の生産量を誇る切りバラをモチーフにし、市内デザイナーがデザイン

（ウェルカムボード・デザイン）

７－２　申し込み実績、アンケート結果等

平成 29 年 12 月 20 日～平成 30 年 3 月 25 日の応募期間で、12 件の申し込みがあった。

（１）申し込み者の概要

12 名の申し込みがあった。転入者の概要は以下の通り。

	年齢（年代）	転入先地域	転入前居住地	出身地
1	30 代	上平良	大竹市	岩国市
2	20 代	上平良	佐伯区	出雲市
3	30 代	城内	安佐南区	鳥取市
4	30 代	大野原	岩国市	岩国市
5	20 代	串戸	浜田市	都城市

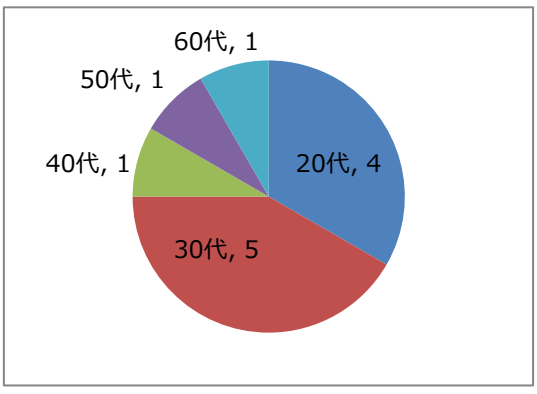
6	50 代	阿品台	高松市	廿日市市
7	60 代	原	中区	山口市
8	30 代	丸石	板橋区	東京都
9	20 代	大野	南区	大竹市
10	30 代	深江	安佐南区	海田町
11	20 代	宮内	東広島市	東広島市
12	40 代	地御前	西区	岩国市

（ウェルカムボード・チラシ）

（２）アンケート結果

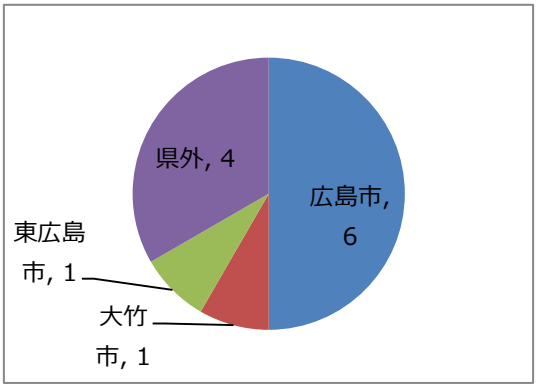
【年代】

年代別にみると、20 代と 30 代の夫婦の申し込みが多い。



【転入前の居住地】

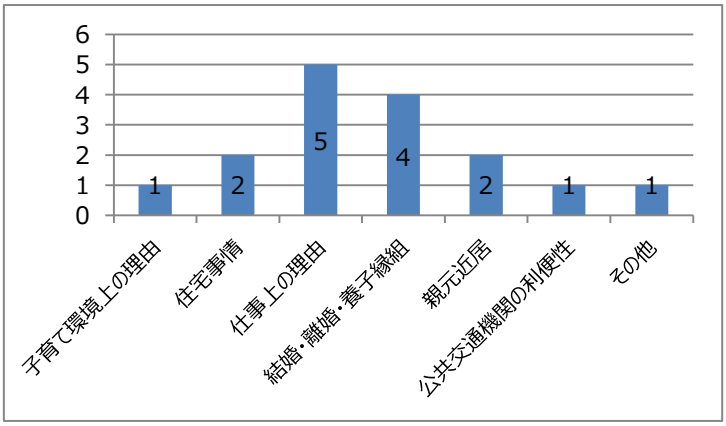
転入前の居住地は、広島市が４人と最も多い。次いで、県外が４人多い。



【廿日市市に転入した理由】

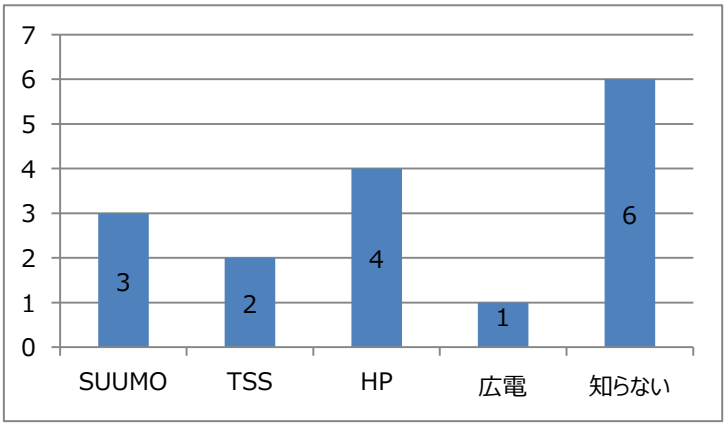
仕事上の理由が５人と最も多い。次いで、「結婚・離婚・養子縁組」4 人と多い。

仕事と家族形態の変化が、住宅環境の変化に大きな影響を与えている。



【知っている移住・定住施策】

「知らない」が６人で最も多い。



（3）新聞記事

2018.1.6 読売

連載はウェブサイトでもご覧になれます

廿日市転入者に歓迎ボード贈呈

市、抽選で10人に

廿日市市は、市内への移住者増につなげようと、転入者に抽選で、ウェルカムボードをプレゼントする取り組みを始めた。

ボード（縦15㌢、横20㌢、幅2㌢）は市の木であるサクラで作り、表面には県内で生産量が最も多い切りバラをあしらった。裏面には転入日や転入者の名前を記載する。

3月20日までに市内に転入した人が対象で、世帯主の出身地や転入の理由、知っている市の施策などについて聞くアンケートに回答した人のうち、抽選で10人にプレゼントする。アンケートは今後の市のPR策の検討の参考にする。

申し込み締め切りは3月25日。転入時に配るQRコードを読み取って応募できる。問い合わせは市シティプロモーション室（0829・30・9221）。

プレゼントされるウェルカムボード＝廿日市市提供

読売新聞：平成 30 年 1 月 6 日（土）

木製ボードで歓迎

廿日市市は転入者にプレゼントする木製のウエルカムボードを作製した。木材港があるなど「木のまち」を独自グッズでアピールする。3月20日までの転入者を対象に抽選で10人に贈る。

ボードは縦15㌢、横20㌢、厚さ2㌢。市の木であるサクラを使い、市内の業者がデザインや加工を手掛けた。真ん中に「歓迎」を意味する「Welcome」の文字を書き、その周りに市内の生産量が県内トップの切りバラをあしらった。裏面には転入者の名前と転入日を記す。

抽選には、転入時に市から求められる10項目のアンケートにインターネットで答えて申し込む。転入理由などを尋ねており、市はアンケート結果を移住・定住を促進する施策に役立てる。申し込みは3月25日まで。市シティプロモーション室☎0829(30)9221。

（森戸新士）

廿日市市、転入者に贈る

転入者に抽選で贈るウエルカムボード

中国新聞：平成 30 年 1 月 17 日（水）

（4）効果検証（WEB 効果測定調査より）

WEB による効果測定調査では、以下のような結果が得られた。（WEB 効果測定調査より抜粋）

Q7 廿日市市の「ウェルカムボード」の取り組みについて、どのように思いますか？

全体では、「非常に良いと思う」と回答された人は 5.5%、「良いと思う」と回答された人は 37.7%と、4 割強が取り組みを好意的に評価している。

広島都市圏と廿日市市を比較すると、大きな差はみられない。

図 31　「ウェルカムボード」評価（全体）（n=613）

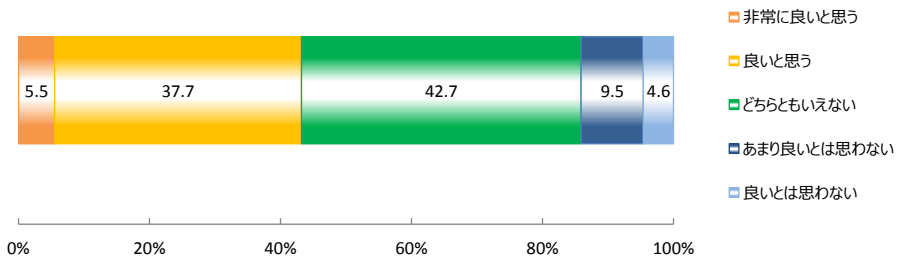
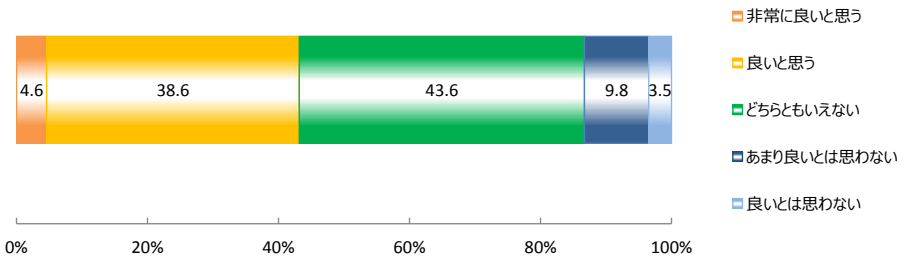
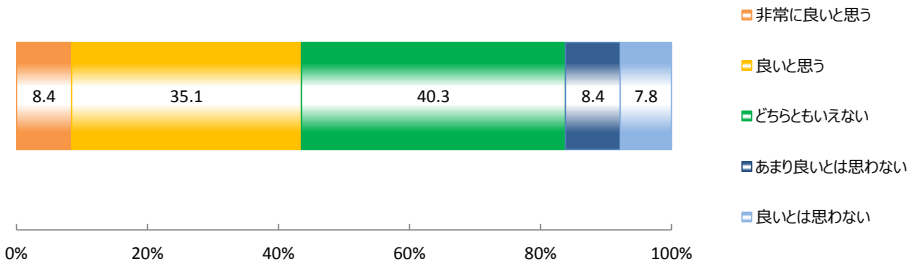


図 32　「ウェルカムボード」評価（広島都市圏、廿日市市）

【広島都市圏】（n=459）



【廿日市市】（n=154）



平成 29 年度廿日市市シティプロモーション業務
報告書

廿日市市分権政策部シティプロモーション室
〒738-8501
廿日市市下平良１丁目 11-1　市役所４F
TEL：0829-30-9221

発行年月日：平成 30 年 3 月 30 日